大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十二年四月十三日印刷納本
大正十二年四月十五日發行（毎月一日一回發行）

LA SEMANTO

5861
2144
no.20

種蒔く人

行動と批判

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

第三年　第四巻　第十八號

『世界語』比較小論
勞農婦人の印象
K村行きの記
遁走
赤列車の客
ロシアの子供を救へ

□　五　月　號　□

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas ilin mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigataj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes" aŭ „ne," „vero" aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

Jen! [illegible] kune kun la kamaradoj el la [illegible] mondo!

La Semanto. (*TANEMAKISTO*)

種蒔く人五月號目次

(題言)
K村行きの記……山川亮
遁走……松本弘二
『世界語』比較小論……佐々木孝丸
勞農婦人の印象……鈴木茂三郎
平林初之輔氏に……尾崎士郎
尾崎氏に答へる……平林初之輔
飢ゑたる露西亞の兒童を救へ……

赤列車

桃色の兵隊……中西伊之助
ブランキズム……佐野袈裟美
車中漫語……田所照明

解散された國際婦人デー……
倫理的義務は?(季吉)——「彼等の行く方へ」(小牧)——床次前内相に代つて林君を難ず(日乃樹)——無産青年とデカダン文藝(光造)——怒れる「文化」(小牧)——Young Communist の「地獄」評(不知火)——要求條件一つ(亮)——「地獄」評(光造)——内部的整理の必要(弘二)——金子の「地獄」(弘二)——第三者として(賢三)——『火事の夜まで』の作者へ(信行)……
□世界欄——聾人欄……
□表紙及びカット……柳瀬正夢

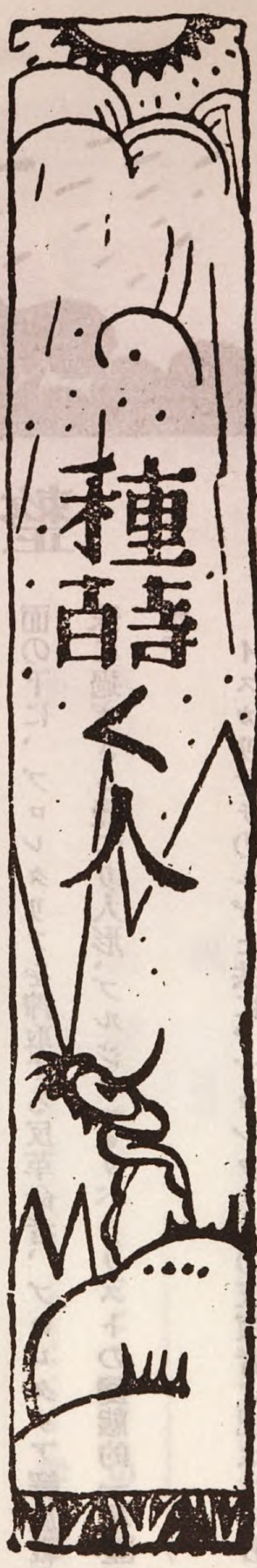
分裂と統整

世界の思想界には、今や反動勢力の魔手が跳躍してゐる、ブルジョア思想の絶望的逆襲が蠢動してゐる。彼等は資本閥最後の斷末魔的痙攣——白色恐怖——を唯一の賴りとして、プロレタリアの文藝運動に吼えついてゐる。この形勢にあつて、プロレタリア文藝運動の戰線は、今や確然として二個に分裂せんとしてゐるのだ。純眞プロレタリア——實行派——の文藝運動は、末梢神經的スレム・プロレタリアと絶縁することに依つて、益々白熱化し鋭角的ならんとしてゐるのだ。そして、『藝術の妖魔』に魅入られた藝術プロレタリア——襤褸プロレタリアの徒は、ブルジョア自由思想家達と共に、暗默の間にこれら反動勢力のヒステリー聲を上げることに依つて、自己の立場の擁護に汲々としてゐるのだ。

この呪はれし末梢神經的藝術プロレタリア——非實行派——をして、吾等純眞プロレタリアの文藝運動の陣營より掃倒せよ。彼等は革命の日に於て矛を逆ましにして、革命の原則に反唾する徒である、彼等はプロレタリアの假面の下に、プロレタリアを搾取する反革命者、プロレタリア解放戰上の一泡沫に過ぎざる繰つり人形、ブルジョア・リベラリストの變態的一模型であるのだ。

イスカリオチのユダと共に、プロレタリアの反叛者よ呪はれてあれ!

東167820
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



K村行きの記（センチメンタルな男）（未定稿）

山川亮

（一）

停車場を出ると闇の底で啼く蛙の聲が、急に爽やかな夜風と一緒に、私の身體に襲ひかゝつた。私は停車場前の廣場の闇のなかに彳んで、暫らくの間は四邊の人影に注目してゐた。空虚な水の香りが何處からともなく漂うて來て、久しく忘れてゐた故郷の田舍の外の思ひ出を、私の胸に活々と蘇へらせた。連日のいろ〱な氣苦勢と汽車の疲れとで、干乾らびて茫つとしてゐた私の頭も、この水の香りのなかに浸つて緩んで行くやうに思はれた。

それでもまだ、私の感覺は、犬のやうな敏感さで、闇のなかを物色してゐた。暫らくして、私ははじめて闇のなかから動き出した。そして今度はさも此土地には慣れきつた人のやうに——否、この土地の人間ででもあるかのやうな樣子で、停車場前の廣い通りを町の方へと、急ぎ足で歩いて行つた。

停車場から町へ入るまでの間——十町程の道程（みちのり）は、燈火もなく眞暗な田圃が續いてゐた。植附けが濟んだばかりの田圃には、滿ち溢れる程に水を湛へて、その水の中では何百匹とも知れぬ蛙が、めい〱勝手な聲を張りあげて啼き立て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐた。水の香り、稲葉のすがすがしい戰ぎ、潮の氣を含んだ微風……何といふ快さだ！　と私は思はず道の上に立留つて空を見上げた。深淵の面を見るやうに蒼黒く晴れわたつた五月の空には、十日ごろの月が、靜かな自然の呼吸と律動を合せるかのやうに、音もなく四邊を照してゐた。

東京から大阪に着いて、大阪と姫路との集會に出席してから、いよ〳〵明日は關西を離れて北陸道へ廻るといふ前夜の小集會でのことを思ひ出した。一人がそつと私の耳にかう囁いた。

『君が近々に出立するといふことは、彼奴らの方では感づいてゐる。そして停車場を警戒してゐる。君の國の方へも無論電報がいつてゐるらしいから、兎も角も例の荷物を始末して終はない限り、油斷しちやいけない。新聞社の方から搜ぐらしたんだから確かだ』

そして其時、傍に立つてゐた二三の友人も私が故郷に近づくことを止めた。それで私は故郷を久振りで訪問する機會を斷念したばかりでなく、目的地へ直行することすらも避けて、この途中の驛で下車して終つたのであつた。

『ホントに忌々しい奴らだ』と呟きながら、私は大切な荷物を肩に擔いで、燈火の明るい町の方へと急いで行つた。

町は靜かな寂しい、しかし感じのいゝ町であつた。いろ〳〵の商店の輝かしい電燈の光りが、人通りのすくない道路を明るく照してゐた。その光りの波のなかを商人風の大人や子供が、ぽつり〳〵と歩いてゐた。軒の庇は低く長く道路の方へ突出してゐた。騷々しかつた都會から終日汽車に搖られ通して來て、突然この田舍町へ投げ出されたやうにしてやつて來た私には、町の大通りを歩いてゐながらも、まるで夢の國をでも歩いてゐるやうな氣持であつた。私のこの瞬間の意識と、私の周圍を取卷いてゐる現實との間には、どうしても幾許かの距りがあつた。私の感覺も神經も少しづつだらけ初めた。――といふよりも人間の堪へ得る緊張の程度を通り越して、次第に放心の心理狀態に陷つて來たのかも知れなかつた。

私は明るい町の、しかし人通りの稀な大通りの中央を荷物を脊負つて歩いて行つた。この奇妙な見慣れない姿――眼鏡をかけて洋服を着た、鬚のある男が、大きな風呂敷包を擔いで歩るく姿――は町の人達に非常に不思議な印象を與へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たに相違ない。彼方からも此方からも兩側の店先に坐つてゐる人達は、皆一齊にまるで早くから相談して申合せてでもゐたやうに、私の姿に注意深い視線を注ぎかけた。私は自分の肉體が兩方から人間の視線の矢で、蜂の巢のやうに穴だらけにされるやうな感じさへした程であつた。時には店の外へ駈け出して來てまでも、私の後姿を見送つてゐる小僧さへあつた。私は光明を遁げ匿れる病獸のやうに、急足で機械的に傍目もせず、なるべく顏を人の眼から蔽ひ包むやうに、首を深く垂れ下げてすた〳〵と歩いて行つた。

軈て町の明るい燈火は次第に數少なくなつた。商店が次第に疎らになつて、屋敷風の家が續き出した。何處も戸を下ろして、寢鎭つたやうにしんとしてゐた。私の姿も次第に闇に匿れることができるやうになつた。ふと疲れた足を止めて、呼吸を吐き帽子を脫いで額の汗を拭いてゐると、蛙の遠音がまた聞え出した。それはこの一列に建並んだ家の背後からであつた。もう直ぐそこの近くに田圃があるのだな、と私は考へながら、じつとその啼く音に耳を澄ませてゐた。無意識の裡に一個のリズムをとつて、高く低く闇のなかを流れる合奏曲……慌しく絕間なく追ひ立てられてゐる私の心、日となく夜となく暗い影のなかに光る眼から監視されてゐる私の心、流動性を失つて次第に乾いて行く私の心――この心の表を撫でさすり勞はるやうにする蛙の合奏曲、意識されない自然の吐息、深い宇宙の一個の脈動が通り過ぎたのを、私は感じた。一個の音律から次の音律へ、そして尙ほその次からその次へと、波紋のやうに蛙の啼く音は私の心を抱擁する。そして遠い音の純な思ひ出のなかに、記憶ばかりでなく、この肉體そのものまでも、こね廻し解體し翻弄する。ノスタルジヤが再び私の胸を強く、まるで刄物で刺すやうに襲つて來た。

しかし遂々私は自分の目指して來た家を探りあてた。私はその工場の入口に立つて、そつと內部を覗いた。工場は眞暗くて、唯左方の受付らしい玻璃戸の附いた室だけには、電燈が明るく輝いてゐた。私はその門を潛り眞暗なかを通つて、その受付らしい玻璃窓のところに立止つた。戸外から室內を覗くと、店員らしい廿歲前後の男が三人、机の周圍に坐つたり寢轉んだりして、その日の新聞を讀んでゐた。私は玻璃戸越しにその人達に聲をかけた。

『もし……一寸お伺ひしますが、B君はお在宅ですか』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この聲を聞きつけて寢轉んでゐた一人が新聞を投げすてると、直ぐ立上つて窓の戸を開けて此方を覗いた。
『B君は……』と私の聲は元氣なく消えて行つた。
『いま一寸出ましが……』と先方も語を曖昧にしながら、不審さうにじろ〳〵と私の顏を眺めるのであつた。
『さうですか……』と私の聲はまた途切れた。『どちらへお出でになつたか判りませんか』。
『さあ……』と言ひ淀んでゐると、その背後から覗いてゐた別の一人が
『そりや判りまへん』と私を追ひ出すやうに答へたのであつた。
『貴方樣は全體どなた樣で——』と前の男が今度はまるで訊問でもするやうな調子で訊ねた。
『僕は東京から來た者ですよ。B君は今日僕がここへ來ることは御承知の筈なんですがね。別にその話を聞きませんでしたか。』
『あッ。さうでしたか』と訊問した男は頭を搔きながら『えらい濟まんことをしました。それなら聞いとります。あんた樣がその人やとは思はなんだので、こりやえらい濟まんことをしました。Bさんはもう直きお歸りになりますで……否何に、本家の工場に行つて居りますので、もう直き歸ります』。
急に三人は室から戸外へ出て來て、私が室へ上ることを頻りに勸めた。
『どうもえらい考へ違ひをしました、この町で眼鏡をかけたり髯を生やしたり洋服を着て歩るく人間は、學校の教師か警察の者より他にあらしまへんで、こりやどうも濟まんことをしました』と一人は辯解した。するとその後から、また一人が
『それにあんたが此家へ來ると報知らせて來た手紙を、工場の主人に拾はれましたのや。すると主人は直ぐ電話をかけよつて、昨日も工場を調べに來ました。その矢先なので、あんたをさう思ふたのも無理あらしまへんやろ。』
私はそんな語を聞き流しながら
『すみませんがこの荷物を預つて頂けませんか。一寸其處まで用達しをして來ますから』。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

から云ひ殘して私は再び停車場へと引返へして行つた。

（二）

　歩るきながら私の心は困惑の極に達してゐた。懷中の旅費はもう十幾錢しか殘つてはゐなかつた。宿屋へ泊るにも泊れない、汽車で引返すにも引返せない、それかと云つて目的地へ今夜直ぐに入つて行くこともできなかつた。しかし、若し今夜この町でBに會へなかつたら……泊る家がなくて、一夜中この町を彷徨廻つてゐたら……今夜を何處かで過すにしても、森の中の神社か、畠の中の小屋か、何にしても人氣のない、町から離れた、朝になつても人目につかない場所でなくてはならない。然し知らぬ土地でそれがさう容易に發見されるであらうか、發見からないと云つて町の人にそれを訊ねることも出來ないではないか？かう考へて來ると、やはり一刻も早くB君に會つて、懷中の事情を打開けて少しも早く安全な場所に身體と荷物を匿すより他に術はなかつた。

　再び暗い田圃を道の兩側に眺めながら、停車場へ來た。しかし構内は空洞のやうにがらんとして、人影一個見えなかつた。

『やはりBは來てゐないのだらう。しかし今夜僕が此所へ着くことを知つてゐて、家にもゐず、停車場へも來ず、もう九時になると云ふのに何處を遊び廻つてゐるのか』。私はBの熱意のない、無責任な態度を責めなければならぬやうな氣がした。

『後は終列車きりだ。これに乘らなかつたら、何としても今夜はこの町にゐなければならぬのだ。終列車の發車までにもう一時間だ。Bは何うしたんだ』。私の胸の中には途方に暮れた者の持つ暗さが停滯しだした。Bに對する憤懣と前途の旅行に對する懸念と、東京との連絡が絶えたことなどが、ごた〳〵と一緒になつて、私の神經を苛立てた。

『もう何うでもいゝ。もう一度Bの家へ行つてみよう。』

　私は再び町の方へ引返へした。しかし今度は飢と渇と、それに疲勞とが急に私の肉體を襲ひ出した。なかでも渇が何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よりも烈しかつた。田圃に盛り上るやうに湛へてある水を眺め、何處か遠くから微かに響いて來る水の音を聞いた刹那には、私は何事も忘れて其方へ驅け寄らうかと思つた程に、冷たい水に渇ききつてゐた。終日飮まず食はずに汽車に搖られ通して來て、いま此處にかうして疲れきつた身體一個を自分自身で持て餘してゐる。この瞬間ほど、私は水の中に全身を浸して自由に啼いてゐる蛙を羨ましく思つたことはない。私はその蛙の啼音を聞きながら、今から半時間程前には、その微妙な合奏曲に慰められたのに、今この瞬間には、その同じ蛙を憎みさへした。咽喉は乾びついたやうになつて、僅かに浸み出して來る唾液には苦味さへあつた。その兩頬の內面の皮膚に浸みる苦味は、私の心を益々苛立て破壞的な暗鬱な氣分に導いた。

『さうだ一刻も早くB君の家へ行つて、水を飮むことだッ』。

私はこの單純な、原始人の持つ慾望に等しい思ひに追ひ驅られて、夢中の有樣で町中を急いだ。誰が私の背後から追つて來やうが、誰が私の姿に不審を抱いて振向かうが、そんなことは少しも私の心に印象を殘さなかつた。Bすらも、「水」といふ考への中に沈沒して姿を見せなかつた。私の眼前には、浪々と綺麗な淸水を汲みこんだ手桶の幻が、執念く附き纏つた。そしてその手桶のなかに私が顏を突込んで、腹の張り裂ける程に水を飮み乾してゐる幻、その水が咽喉から胃へと冷たい氷るやうな感じを浸みとほす幻覺――私はこの幻に引擦られて、額からは汗を流し呼吸をはづませて、遂にBの門口を夢のやうな氣持で潛つた。

『まだ歸らないでせうか』。私の聲は乾ききつて咽喉に引懸つた。

『まだですが、お上りになつて待つてお出でになつては何うですか。何うして今夜はこんなに遲いのですやろか、何時もは日が暮れると直ぐ此處へ來られるのですが……』。

『それでは待つて見ませう』。

『それでは何うか此方から』。と云つて一人が工場の機械室の入口の方を指で敎へた。

私は機械室の片偶を通つて、室の隅の入口から事務所の奥の室へ上つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『すみませんが水を一杯を頂けませんか』。私は坐るか坐らないに、殆んど無意識のうちにかう云つた。

『水ですか』。と云つて一人は立上つて、直様鐵瓶を片手にして室外へ降りると、工場の奥へと驅けて行つたが、間もなく歸つて來た時には湯氣の立ち上る熱い茶の入つた土瓶を下げて來た。私は直ぐそれを大きな湯呑みに注いで、熱いのを我慢して何杯も飲み續けた。漸くにして人心の附いた氣持に復つた私は、これまで吃驚して、唯、まじ〳〵と私の顔ばかりを瞶めてゐた三人に、ゆつくりとした氣持で訊ねた。

『本店は遠いんですか。いま停車場へ行つて見たけれど、B君はゐませんでしたよ』。

『もう歸る時刻なんですがね』。と一人は答へた。そして時計を眺めた。九時廿五分のところを、時計の針は指してゐた。

私は茶を十分に飲んで渇もとまると、所在なさに傍の新聞を擴げて讀み出した。それから十分と經たずに、ふと人の氣勢に氣附いて頭を上げると、私の傍にセルロイド縁の眼鏡をかけて、少しばかり髯を伸ばした、汚れた職工服を身體に着けた、まだ廿三四歳位の青年が立つてゐた。私がその顔を見ると同時に

『Bです』。とその男は愛想氣もなく答へた。そしてその儘默つて終つた。

『先刻一度此處へお訪ねしたのでしたが、御留守でしたので、また停車場へ引返へして見ていま此處へまた引返へして來たばかりです』と私は言つた。

『主人(おやじ)が何か言ひはしませんでしたか』。とBは私の話には關係なく、かう訊ねながら薄笑ひを頰に浮べた。

『別に何とも……然し貴方のお留守には少々面喰ひましたよ』。と私も笑つた。

『ところで早速に今夜の宿を何とかしなければならんのですがね……』。と何か思案するらしく、指を動かせた。

私はそのBの顔を凝つと瞶めた。そしてBの語の意味がはつきりと最初は諒解できなかつた。

かう云つて暫らくすると、Bは着物の着換へをすると云つて、一度室から出て行つたが、間もなく紺の單衣飛白の着物に着換へて出て來た。私も一度脱ぎ棄てた上衣に再び手を通して、風呂敷のなかから、齒磨や揚枝のやうな種類のものだけを別に包んで、それを手を下げながらBの後からついて、街道へ再び出だ。もう飢と疲れとで、私はへと〳〵に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なつて、出來ることならこの儘この地面に坐りこみたい程になつてゐた。私は足を、――といふよりは身體全體を引擦るやうにして、Bの後からのろ〳〵と歩いて行つた。仰ぐと空は宵の口よりか尙ほ一層、蒼黑く冴えて見える。海に近く、空氣の濕りを帶びてゐる故か、大空を鎖めてゐると底の知れない、モノトナスな感じが心の內に浸入して來る。何處も彼處も人氣のない程に寢鎭つて、人通りも途絕えた、廢墟のなかを行くやうな町の、遠くから按摩の笛が切れ〳〵に聞えて來る。

町を橫に切れて、田圃の眞中へ出ると、遙か彼方に停車場の灯が燦然として、闇の中に明るく輝いてゐる。田圃の路はうね〳〵と廻りながら、停車場の方へと伸びてゐる。蛙の聲が二人の身體も埋めて終はんばかりに、四方から氣勢ひ懸つて來る。

『停車場へ行くのか？　然し停車場へ行つて何うしようと云ふのだらう……』

私は意氣地なくも、この時少し心細い氣になり出したのであつた。

（三）

三度び私達が停車場へ姿を現した時には、終列車發車時刻の十分程前であつた。

驛の待合室で始めてBは、溫泉場の友人Aを始め四人の者宛の紹介狀を私に渡した。そしてから云つた。

『明日僕が行つて始末しますから、今晚だけ我慢して其處で泊つて下さい。木賃宿ですから、宿賃だつて知れたものです』。かう云つて其處へ行く道順を詳しく敎へながら『彼方へ着けば十二時前でせうから、まだ起きてゐます、多分。A君は理髮床の職人ですから、理髮床を訪ねて行けば直ぐ知れます』。

とこんな話をしながら二人は、待合室の片隅で汽車の來るのを待つてゐた。終列車に乘る客はぽつり〳〵と集つた。改札口を開けた時にプラツトフオームに出たものは五人あつた。私はこの五人の田舍の客達の陰に匿れやうにして、汽車の見えるのを待つてゐた。やがて汽車が來る響が遠くから傳つて來た。私はプラツトフオームに、洋服の上衣のポ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ツトに兩手を突こんで、靜かに口笛を吹きながらBの方を見た。Bも私の心持を理解したのか急いでプラットフォームに入つて來た。私はBと肩を並べて、空を眺めてゐた。身體は綿のやうに疲れきつて、唯、もう機械的に手脚を動かしてゐるに過ぎなかつた。それでも前途の不安が、私の心を緊張させ、神經を鋭敏にして、全身の疲勞と空腹とを征服してゐた。しかし私の胸に蝕むやうに侵入して來る心細さは、何うしても消すわけには行かなかつた。

汽車は直ぐ月明の夜の空に、火花を吐き散らしながら、轟々と地面を搖がせて構內へ入つて來た。

『左樣なら』。と私はBの手を握つた。

『左樣なら』。とBも私の手を握りかへした『彼方の同志に宜敷く言つて下さい。明日の夜はKでは湯祭りですよ』。

『明日はお出でなさい。正午ごろまでには、待つてゐますから』。そして私は急いで車室の內に姿を匿した。Bもプラットフォームを離れて改札口から出て行つた。

私がそのBの姿を見送つてゐると、其處へ慌し氣に劍を鳴らせて一人の警官が入つて來た。そして改札口の所に立つて、凝つと車內の方を眺めてゐた。私は鳥打帽を眉深かに冠つて、上眼遣ひに眼鏡越した警官を見守つてゐた。Bは素早く停車場前の闇のなかに紛れこんだ。降車の客が全部改札口を出て終ふまで、警官は凝つと注意深かく四邊を見廻してゐたが、やがて足を動かせて一歩プラットフォームに入らうとした時に、同時に鋭い發車合圖の笛が、靜かな田舍の停車場の空氣を顫はせて鳴り響いた。と、機關車でも同じく合圖の笛で、それに應へた。そしてごとん、ごとん、ごとん……汽車は遂にプラットフォームを離れ始めたのであつた。

『左樣なら、左樣なら……』

汽車はどん〳〵と月明の夜をまつしぐらに走つて行く。車內に乘り合せた客は皆この近在の百姓達らしく、默つて、木像のやうに深かい皺だらけの顏を、薄暗い電燈の下で曝しあつてゐる。その見るも痛ましい、誇りぬいたやうな額の皺、長い數十年の間の生活苦を象徵してゐる額の皺。人類の苦惱を一人で脊負つて終つたやうなその額の皺。これらの農民が、宿命的なものと觀念せられてゐる、不合理な鐵鎖を斷ち切つて、その胸に、彼等の集團のなかに叛逆の焰の燃

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

え出すのは何時か。その額の皺が悲哀の象徴でなく、奴隷の烙印でなくなる日は何時か、それが歡喜のマークとなり、解放の旗印となる日は、何年の後に來るであらうか……

汽鑵車の煙筒から吐き出す火花は、晴れた大空に無數の礫を投げたやうに、末廣がりに散つて行く美しさ。轟々と鳴り轟ろく車輪の響の底から、その凄じい音響にも打挫がれずに、勇ましく優しく田圃の蛙が合奏してゐるのが、はつきりと聞える。進め！　進め！　前へ！　前へ！　私の胸には、もう病人の寂しさも佗しさも何時の間にか消え去つて、唯、勇敢な闘爭意志だけが焰のやうに次第々々に燃え上る……

次の驛で汽車を降りて、馬車に乘り換へ、軈てその馬車がＫ溫泉場に着いたのは、もう十二時を過ぎてからであつた。私は馬車から降りた唯一人の客であつた。私の他にこのＫ村行最終の馬車で此處へ來たのは、一尺四方位の魚籠のやうな荷物一個であつた。

私は馬車から降りて、明るくはあるが、しかし寂しい、湯の香の漂ふ何となく四邊の風物ののんびりとした溫泉場へ來たことを感じた。寢鎭つた町中を、Ｂから貰つた地圖を頼りに理髮床を搜した。しかし何處へ行つても、最早や戶を下ろして寢て終つてゐる家の戶をたゝいて、尋ねるわけにも行かなかつた。私は兎も角も、持つて來た地圖と見較べ見較べしながら、東へ〳〵と歩いて行つた。間もなく大きな公衆浴場のある所へ出た。惶々と街路を照してゐる電燈の光りは、更け靜つた湯の町を一層寂しくしてゐた。私はまるで見棄てられた宿なし犬のやうな頼りないが、しかし來る所へは兎も角も來たのだといふ安心した氣持ちで、公衆浴場の前に立留つた。そして私は直ぐ眼の前に見える、理髮床の明りを眺めて、ほつと溜息を吐いた。その理髮床が、今夜私の訪ねて來たＡのゐる家であつた。入口には半分白い幕を引いたきりで、まだ床屋の職人達は起きてゐるらしかつた。あの職人達の仲間に、Ａがゐるのだと私は思ひながら歩いて行つた。

『御免下さい、一寸お伺ひしますが』と私は白い幕の間から內部を覗いて聲をかけた。

『えつ』と云つて吃驚した聲を出して一人が私の方を振向いた。他の一人は指先で將碁の駒を弄くりながら、靜かに顏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を上げて私の方を眺めた。店には二人の若者が、ちやうど仕事を終つて將碁に夢中になつてゐる時であつた。
『Aさんといふ方はお出でせうか』と私は不安な氣持ちでかう訊ねた。
『いま一寸湯に行つとります』吃驚した方の男が私に答へた。
『もう歸られる頃ですか』と私は訊ねた。
『へえ、もう大分先刻(さつき)でしたさかえ、程なく歸りますやろ、まあ、お入りなすつて』とその男は言つてくれた。
私は地獄の底から救はれたやうな氣がした。私は云はれる儘に店へ入つて、Aの歸へるのを待つことにした。身體はぐつたりとして、もう關節の節々が自然と解きほぐれて行くやうな氣がした。朝、汽車に乘る前に輕い食事をしたきりで、先刻Bの家で茶を無暗と飲んだ他には、何も咽喉を通つてゐなかつた。空腹で眼が落ち込んで行くやうな思ひさへした。それでも此處でかうして、椅子に腰を下ろして『もうこれからは何處へも行かなくて濟むのだ、今夜は此處で安心して眠れるのだ』と思ふと、急に暗い氣持も何處かへ拭ひ去られ、疲れも空腹も我慢できる程に、晴々した氣持になつて來た。私は次第に明るくなつて行く、自分自身の心を瞶めながら、Aの歸るのを待つてゐた。時計はもう一時を五六分過ぎてゐた。
四邊(あたり)が靜かな故であらう。地下から湧き出る湯の音が、まるで鐵瓶の湯の沸るのを遠くで聞いてゐるもののやうに、しゆん／＼と何處からか微かに聞えて來るのであつた。
私はその湯の沸き出る音に、全身がひき入れられて行くやうな氣持ちがして、いままで緊張し燃え上つてゐた心は、次第々々に靜まり落着いて來るのであつた。恍惚とした氣持ちで、私はAの歸へるのを待つたゐた。しかしAは容易に歸らなかつた。待ち草臥れて、漸くAが歸つて來た時には、もう一時半をずつと過ぎてゐた。この卅分程の間、何の所在もなく、一言の語も交はさずにゐた時間の長さ。私はAの顏を玻璃戸越しに見た瞬間に、思はず椅子から立上つた。Aは片手に手拭を下げ、溫かさうに湯氣を吐きながら入つて來た。脊の高い、職人らしくきりつと引締つた色白の顏は磨きをかけたやうに綺麗であつた。見知らない私がゐるのを不審さうにじろ／＼と眺めながら、火鉢の方へ近寄つて煙

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

草を取上げようとした。私はＡに近寄つて默つてＢからの紹介狀を見せた。その瞬間には、私の胸の鼓動は平常より少しは早くなつてゐた。泊めることを承知してくれるか、それとも謝絕されるか、それともＢと同樣に體裁よく他へ紹介するなどと云ひ出すか……私はＡが顏に疑惑的な表情を浮べて、その紹介狀を讀んでゐる顏を、眼瞬もせずじつと瞶めてゐた。讀み終つたＡは

『まあ此方へ』と云つて私を火鉢の傍に坐らせながら『Ｂ君はどうしてゐましたか』と少し吃り〳〵訊ねた。

『Ｂ君には今夜會つて直ぐ此方へ來ることになつたものですから、詳しい話はしませんでしたが、明日午後から此方へ來るとの約束です』。

『手紙にもさう書いてあります。今朝はどちから、東京からですか』。とＡは訊ねた。

『京都からです』。

そして二人は默つて茶を飲み出した。將碁に夢中になつてゐた二人も、私等の話に好奇心をそそられるやうであつたが、自分達とは全然關係のない事柄だと判ると、將碁盤を片附けて、生欠伸をしながら『さあもう寢やうやないか』と云ひ〳〵店を上つて、奧の間の圍爐裡の傍へ行つた。私等も茶を飲み終ると、Ａは親切に私に云つた。

『隨分腹が空いたでせう。殘り物ですが、それで御飯をたべて寢ませうや。明日は早くに、友人達に知らせて置きます。夜具は汚ないけど、ありますから辛抱して下さい。木賃宿ですから、何としても仕方ありません』。かう云つて笑ひ笑ひ煙管を手放して立上つた。

私もＡの後から立上つて、店から木賃宿の方へ續いてゐる扉を潛つて、Ａと一緒に暗いその梯子段を一歩々々上つて行つた。

『然しここは便利ですよ。宿屋と料理屋と湯屋と理髮床とが一軒の內にあるのですから。明日は早く湯に入りませう。頭の方は私がひとつ當つてあげます』。暗いなかではＡは私にかう云つた。私は思はず蓬々と伸びた自分の頭髮や頰鬚に觸つて、暗闇のなかで一人で苦笑を洩した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この時、突然に更け靜つたしんとした闇のなかで、何かに吃驚でもしたやうに宿屋の大時計が、ぶうん、ぶうんと二つ鳴り響いた。

作者記　舊稿を出すといふことを深く恥じてゐる。しかも未定稿の儘でだ。しかし餘儀ない事情の爲めであることを諒として欲しい。

遁走

松本弘二

一

『國から遁げて來たのだ。……』

二月の或る夜、吉岡夫婦が、やつと晩の御飯が濟んで寛いでゐる時に、かう言つて這入つて來たのは、彼と舊友の高野であつた。高野は彼よりも年下の二十四五の青年で、元氣に滿ちた顏はしてゐたが、しかも彼の顏の何處かしらには、彼が高野とほんの一年か二年前東京で會つてゐた時よりも、憂鬱な、世の中の苦勞が身體の隅々まで行きわたつたやうな、一言で言へば沈痛な顏をしてゐた。

彼は二月といふ寒さにも拘はらず、薄着の爲めに身慄ひしてゐるかに見えた。が、高野の沈痛な顏よりも、彼等を最も驚かしたのは、高野の後ろの方に、謹ましやかに坐つてゐる、十七八とも思はれる、可愛らしい女の顏であつた。高

野には姉妹はない筈だつた。縱令ばあるにしても、野暮な高野の姉妹らしくもなく、何處となく玄人らしい、華やかな着物を着てゐるのみならず、顏は顏で、白粉で二年も三年もこなしたらしい、普通の町娘とは違つた、一種の出來上つた顏付をしてゐる。吉岡夫婦も、高野が國で料理屋にゐたことは知つてゐた。が、以前の彼を知つてゐてみれば、よもや高野が藝者と東京くんだりまで駈落ちをして來るほど、洒落のめした、呑氣な男ではないとも思はれてならない。

『僕はこれを連れて逃げて來たんだ。これは僕の方にゐた舞子だ。僕の戀人でもなんでもなかつたんだ。だけども、今は僕の女房みたいになつちやつた。……』

それから、高野は、興奮したり、悲慘な顏をしたり、又は手眞似をしたり、煙草を吹かしたりして話しだした。

二

『僕の今度の話へ這入る前に、順序として、僕の國での生活の大體の樣子から話さう。その方が僕が、東京くんだりまで逍げて來た話を呑み込んで貰ふ爲めには、極く必要なことであると思ふから。

僕は今說明として、少し槪念的な話をする。聞きづらひだらうが、本筋へ這入るまで我慢して聞いてくれ給ひ。或ひは本筋よりも、この話の方が長いかも知れない。畫家としてやつて行く積りで、それまで三年も四年も繪ばかり描いてゐたものが、何うして料理屋のマネーヂャーなんかになつたか、それはその當時、君に手紙で知らしたとほり、骨肉としてたつた一人生き殘つてゐた母が死んで、僕が何うしようかと思つて途方に暮れてゐた時に、料理屋の叔母に引き取られてからのことだ。僕は料理屋のマネーヂャーなんかやる氣がなかつた。僕の親類であるとは言へ、それまでの僕には、料理屋などゝいふものは、最も下等な、しかも嘘ばかりつく藝者のゐる、別世界のやうな氣がしてゐた。從つてそんな親類を持つてゐることさへが、實をいふと餘り好きではなかつた。僕はすねた。母の葬式が濟むと、直ぐ上京したい位ゐだつた。けれども、それにしても母を失つてからは、僕自身が今獨立して暮して行けるか何うか、その自信がなかつたのみならず、淋しくもあつたのだ。若くして總べての骨肉を失つたものでなければ、迚もこの場合の淋しさは分ら

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないかも知れない。

兎に角、僕は僕が最も厭がつてゐた、又最も恐れてゐたものゝ中へ這入つて終つたのだ。叔母の家は、單に料理屋ばかりをしてゐるのではなかつた。叔父は東北でも有名な相場師だ。米で儲けて、現株問屋を始める。魚市場を始める。段々調子に乘つて來ると、今度は礦業會社を始める。――そんなことで、自分の勢力範圍には、總べて身內の者を分配して、それ〴〵要塞を堅めるといふ始末。魚市場へは叔父の弟、會社の方へは從弟、本城の米の店には息子である僕の從兄が坐るといつた具合だ。

勿論、料理屋の方は買占めで儲けて建てた、建築費十萬圓といふ百疊の廣間も持つてゐるし、客間ばかりが二十もある一流の料理屋だ。第一そんな叔父だから、僕等が畫を描いて、しかめつ面をしながらカンバスを眺めてゐたところで、可笑しくも、面白くもないのだ。自分が空想する大事業、大計畫の前には、三文の價値すら認められない當然と言へば當然の話だ。それぱかりではなく、料理屋の方のマネーヂャーの方が、一番やりにくいことになつてゐる。第一色氣商賣だ、女ばかりゐる中で、色氣離れて、金の慾ばかりでやらねば勤まらぬ役目なんだ。若い者では不可いし、それかといつて、齒の脫けかゝつたお爺いさんではなほ不可いのだ。叔母はゐるけれども、家が廣くなつたり、人數が多くなつたり、客の範圍が廣くなつたりすれば、何うしても或る場合は委せ切りにして置かれる人物も必要になつて來る。帳場の一人や二人ゐたところで、金庫の番はしないに定つてゐるぢやないか。

それまでにも、マネーヂャーがゐないわけではなかつた。叔父の身內の方から來た、その頃僕位ゐの若い男があつたが、それは米相場に手を出して損をした上に、藝者に手をつけたといふので出されて終つた。こんな社會では、藝者は人間でなくて商品だからだ。それから、叔父の三番目の子で、中學に行つてゐたのが、中學を止めさせられて叔母の手助けをやつてゐたが、それは遊廓の女に深くなつて、お金を酷く使ひ込んで、その擧句獵に出るといつて出たまゝ歸つて來なかつた。その從弟は獵銃で自殺したんだ。その後その後と遠緣、何かのひつぱりといつたやうな、曰くつきの關係でマネーヂャーで据ゑられたけれども、皆同じやうな結果でゐられなくなつて終つた。――そりや然し、考へてみれ

ば無理のない話だらうぢやないか。料理屋なんていふ、色氣商賣の中にゐて、マネーヂャーだけは色氣を出すななんて、そんな無理な注文があるだらうか。お菓子屋の小僧に、菓子を食べては不可いといふのと同じ道理だ。——かういふと君もそのお菓子を食べて、お定りの不義理が重つたんだらうと言ふだらうが、まあ僕の場合を、さう速斷することばかりは止めてくれ給へ。——そんな具合で、誰も彼も料理屋のマネーヂャーにする人がなくつて、叔父達もそのことばかりには弱つてゐたらしいのだ。僕でなくつたつて、まだ他に身内の若い者は幾らもゐる。眼から鼻に拔けるやうに悧巧で、商賣氣の强い奴は幾らもゐる。けれども、それが叔父達夫婦にしてみれば、これまでの經驗に照らしてみて一番危いのだ。そんな悧巧者には手を燒いてゐるのだ。その時ひよつくり降つて湧いたやうに、叔父達の前に現れたのが、この朴念仁の僕さ。第一、青い顏をして色氣のないやうな樣子をしてゐる。女には氣もないやうな顏をしてゐる。

たうとう、義理と拜み倒しと、それに僕自身の意氣地なさから、僕は輕蔑し切つてゐた叔父の仕事の手傳ひをすることになつて終つた。僕は、他の若い衆と共に、帳場の格子机の前に坐つた。僕は、君も知つてゐるとほりの、長い髮を切つて終つて、角がりにした。それから前掛けをはめた。何だか妙な、耐へられない感じがした。といつて、やり出して見るとその仕事に一所懸命にならないではゐられなかつた。中途半端なことが嫌ひな性分として、仕方がなかつた。いゝ加減にやつてのけることが出來たのなら、寧ろ今度のやうな悲劇は生れなかつたかも知れない。然し、僕はどんなに自分が苦しくつても、いゝ加減でなかつたことをいゝことゝ信じてゐる。いゝ加減で樂な日を過すよりも、一所懸命にやつて苦しんだ方が、どれ位ゐ自分自身で慰めらるか知れない。その爲めに死んだとしても、それは仕方のないことだと思つてゐる。これは、君の前での高言ではない積りだ。』

三

高野は、段々話の調子にのつて、眉間に八字を描いて、眼を光らしながら續けて話した。次から次へ、バットの吹殻を火鉢の中に突つ込みながら。…………

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『僕は、大抵朝の十時か十一時頃に起される。寢る時は早くて午前一時だ。僕は楊枝を口に啣へながら、鷄屋の勘定をしなければならない。僕の仕事は毎日鷄屋から始ることになる。それからの午前中は割合に暇だが、居續け客やら、雜用で外出も出來ない。午後からの忙しさは、僕が說明しても迚も分らないだらう。現場にゐなければ分るものではない。兎に角、うつかりしてゐると晩飯も食べられないで、電話と、燗場と、藝者が乘つて來る俥の切符と、料理場と、帳場の往復で、殆んどぼんやりして來る位ゐに忙しい。客は大抵宴會で、よく每晩續くものだと思ふ位ゐに、十人二十人位ゐの小宴會から、百人二百人の、料理屋としては本統の宴會らしい宴會が續くのだ。縣廳處在地とは言へ、田舍の街によくもこんなに宴會が續くと君は思ふだらう。實際、僕自身が何度さう思つたか分らない位ゐだ。』

『僕が、始めから、料理屋などゝいふものを輕蔑し切つてゐたことは、君も承認しくれるだらう。血緣の叔父叔母でさへ輕蔑してゐた位ゐだ。總べてが汚いものづくめ、惡づくめ、不純づくめ、彼方にも此方にも、汚いものが浮動してゐて、人々の心を喰ひ盡してゐると思つてゐた。實際又さうであつた。

十二時にもなると、大部分の客は歸るとか、居殘るとか、何方かに片附いてゐた。待合のない僕の方では、料理屋でもつて待合の役目をつとめるのだ。十二時を一と仕切りにして、總べての勘定をしなければならない。五六册の仕分け帳を全部勘定して、それから三十分ばかり客間の方を一と巡りして、料理場や、燗場の注意までして、ぐつたりした身體を自分の部屋に運んで行く。僕の身體はぐた〳〵に疲れてゐる。頭も馬鹿になつてゐる。けれども、それからの時間が、僕には一番樂しい時間だ。自分の、本統の時間であるやうな氣がする。僕はゆつくり考へる。そして、惱む。淫亂、野獸性、絃歌、總べてそれらの汚ない混亂の餘燼が、僕をなか〳〵眠らしてくれない。二時にもなれば、外界には物音一つ聞えぬ、全く靜かな世界となつて來る。そんな時に限つて、廊下を絹ずれの音がして、女の輕い足音が遠くの方へ過ぎ去ることがある。さういふ場合には、僕だつて感情的に非常な嫌厭を感ずる時と、たまらなく甘い誘惑に引き入れられる時がある。誘惑に苦しむ時がある。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

僕の頭は、――僕の氣持は段々憂欝になつて來た。マネーヂヤーとなつてから、五六ケ月も經つのに、外出らしい外出もしたことがなかつた。勿論、給筆など持てる筈もなかつた。それ位ゐ、家の中は不整頓で、何も彼も一人で解決しなければならない位ゐに仕事が多くて、荷が重かつたのだ。叔母は家庭のことや、其他主婦らしいことで忙しかつた。帳場は、集金や雜用で居ない勝だつた。僕は、たとどんなにしてゞもいゝから十日か二十日位ゐでも、のび〳〵とした、山か、海か、それとも別莊地にある支店の方へでも行き度いと希つた。が、それよりも、自分の意氣地なしを、度々憤慨しても見た。夜中になつて、惱ましさのために薄團の上に起き上つて、何度も〳〵考へてもみた。東京の方へ出ることにしようか。今のやうな苦しみを嘗める覺悟ならば、何處でだつて一本立が出來る。明日になつたら叔母に話して、暇を貰やうにしよう。さう覺悟をするかと思ふと、また一方には行く手の不安がまざ〳〵と浮んで來て、僕の頭を苦しめる。僕は天にも地にもたつた一人だ。此處にゐれば叔父叔母もゐる。――と言つて、こんな汚ない、十五時間も働いて、働らけば働らく程不快を感ずるやうな、働らく爲めにより多くの害毒を流すやうな、下らぬ仕事をしなければならないのだらうか。僕が坐つてゐる前には、電氣の光で自分の影がぼんやりと黑く横つてゐる。そんな具合に、僕は幾晩も〳〵も起きては考へ、起きては考へしたものだ。そんな朝、叔父などが帳場へやつて來て、にこ〳〵しながら「馬鹿々々敷い話だなあ。あの時よし共が反對しないで、英國の船を買つてゐたなら、今頃は百疊敷きの蚊張でも造らへて、廣間でふんぞり返つて晝寢していゝ身分なんだが、女なんて奴は先が見えんのでねえ……」

こんな毎々の自慢話でも聞かされると、僕の頭には冷笑的な氣持がぐつと飛び出て來るのだ。その梅毒顏で、今だつて妾の二人や三人もあれば、一人前以上の大蠢ぢやないか、と言ひ度くなるのだ。』

四

『そろ〳〵今度の問題に這入ることにしよう。君もこんなことを長く聞くのは飽きるだらうから。兎に角、僕には料理人や、女中、其他雇人達の心の荒びやう、その心の荒ぶ經路がはつきり分つて來た。毎日々々の事件や、人々の接觸に面

と向つた時に、ドン・キホーテ式な僕の理想は面喰つて終つた。半ヶ年決算をした時に、僕の方の料理屋としての收入は幾らだつたと思ふ。三萬や五萬のはした金ぢやなかつたと思つてくれ給へ。收支決算をして、利益だけがそれ位ゐはあつたと思つてゐてくれ給へ。その金は誰が働いたのだと思ふ。何うして儲けた金だと思ふ。叔父にしてみれば、これだけの家や道具といふだらう。人を使つてゐるといふだらう。けれども、皆で十四五時間も働いて產み出した、それから藝者共に淫賣をさして線香代から上つた利益だ。僕の雇人優遇案なんてものは、勿論一言で一蹴されて終つた。一事が萬事だ。今此處で僕は話さないが、薄情の限りを盡したやり方が、何う雇人達の心へ響いたか想像しても見てくれ給へ。僕は料理人達や、女中達や、その他雜役をしてゐる、それから抱へ藝者達にまで殆んど百人もの人々へ、ひそかに叔父叔母達と鬪へと宣傳し出したものだ。血緣の人達を敵にする。それは悲慘なことだ。耐へられないことだ。然しながら、百人の不幸と、或ひはその家族まで加へるとしたならば五百人もあるかも知れない。その五百人もの不幸と、一家族一門の幸福とが、何方が斤量にして重ひと考へるか。そればかりではない。叔父は米の買占めをして、町民に家を取り卷かれたことがある。會社の五百人もの職工達から、ストライキを起されたことがある。』

『吉岡君、僕は今迄藝者の話を餘りしなかつたね。僕は大體に於て、藝者は餘り好きではない。あの惡趣味な、下品さは何うだ。あのお喋りは何うだ。幇間的な虛欺の笑ひの底に隱れてゐる、あの凄い心は何うだ。然し、さうなるまでの經路を考へる時に、僕はぞつとして來る。人間から、惡辣な夜叉になる經路だ。或る一人が華族の令孃であり得て、他の一人が僅かの金の爲めに賣られて、淫賣をしなければならぬといふ理由が何處にあるだらう。酒を呑んで立て膝をするのと、自動車を乘り廻して、所謂今日は帝劇を極め込むのと、何といふ違つた格好をしてゐるものだ。君は僕を甘いとは言つてくれないだらう。若し、君が僕を甘いと言つたところで、世界中が僕のやうな甘い人間ばかりであつたら、こんな平和な、幸福な世界はないと思つてゐる。といつて、僕もそんなにまでお人好しではない積りだ。

僕は藝者達に、何れ位ゐの借金があるかと思つて、そつと金庫から帳簿を出して調べて見た。一體、どれ位ゐの借金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

があつた思ふ。二十人もの抱へ中で、田舍とは言へ千圓を越してゐる者は一人か二人しかないのだ。大抵七八百圓だ。少ないのは三四百圓だ。それも多くは衣裝代で、借金が多くなつてゐる。千圓位ゐのお金で、人間の一生を棒にふらねばならぬ人間のある世界ならば、僕でなくつたつて、誰でもが呪ふだらう。しかも、その時僕は何うだ。鬼の手先きとなつてゐたではないか。

僕は、出來るだけ僕の方で客を泊めぬ方針をとつた。不見轉藝者が、仲居共からいぢめられて、しぶ〳〵と枕を抱へて行く姿が、何とも言へず僕の心を打つたからだ。しかし、それも僕の中のドン・キホーテの現はれとして、何の役にも立たなかつた。たゞ一つ、何うしても僕のドン・キホーテ式の心持を拭ひ去ることの出來ない事件があつた。それは舞子の水上げだ。舞子の内でも、充分助平な奴で、デブ式の手にかゝつて或る洗禮を受けることを、寧ろ喜んでゐるやうな女ならば、僕等の心にも直接さう響くものではない。けれども、十人が十人共そんなものではないのだ。しかも、それが大抵の場合十五六の時で、色氣社會の中で如何に馴らされたと言つたところで、まだ子供は子供だ。それに、舞子の味でもといふ奴ならば、多くの場合頭の禿げた、左もなくんば人相のよくない、餘り人好きのしない奴に定つてゐる。それで、その番に當つた舞子共は三日も四日も、あゝ言ひかう言ひして、はては金切り聲を起てゝ泣きながら、彼方此方逃げ廻る。それを抱主と、姐さんと、仲居とでとつちめて、つねる、はたく、なだめるといつた遣り方でたうとう物にして終ふ。體のいゝ强姦だ。道端で性慾に餓ゑたものゝ强姦ならば、大抵の場合とつ掴つてゐるんだが、金があり餘つてゐて、物好きにする强姦ならば、何時の場合でも許されてゐるのだ。日本中の藝者の數が幾らあるか知らないが、一本になつた藝者が子飼ひからの者だつたなら、一人としてこの傳をやられなかつたのはないかも知れない。何といふ世の中のからくりだ。』

五

『この人も、その舞子の内の一人だつたんだ。』高野はさう言つて、自分の後にゐる女の方を顧つてから話し續けた。『僕

はこの人達が可哀くてたまらなかつた。いぢらしい氣がした。始めの内、僕は僕の方で水上げは一切御免被ると仲居達をとつちめてやつた。然し、さうなれば結局他の料理屋でやるのだ。そればかりでなく、僕を拜み倒すか、内密にしてやるかする。僕も手を燒いて終つた。

この人の話があつたのは、もう去年の春からのことで、手をかへ品をかへ、形容のとほりの手續きで責めたてたものだ。僕も反對したばかりでなく、この人自身の意志も强かつたのだ。それに僕は、この人は可なり好きであつた。今の場合、僕が好きだつた理由を言ふのは止さう。お惚けに聞えると惡いからね。それどころか、そんな呑氣な場合ではないのだ。たゞ舞子の內でも、一番好きであつたとだけ言つて置かう。さう言ふと、それでは僕達二人で已にいゝ仲になつてゐたのだらうと言はれるかも知れないが、決してそんな嬉しいやうな關係ではなかつたのだ。長く説明するのは止すが、僕は他に戀してゐた女がゐた。嫁に貰ひ度いとさへ思つてゐた。けれども、それには未だ僕の意中を話してはなかつた。僕一人で定めてゐたやうなものだ。――近所の下駄屋の娘だ。

僕がこの人を好きであつたばかりでなく、この人も僕を嫌ひではなかつたらしい。普通の意味で仲好くしてゐた。線香代の二本や三本、餘計に書き込んでやつてゐたことは事實だ。この人に對する厚意であり、又甘さだ。ところが、この人も今年は十七になつた。もうどんなことがあつても舞子ではゐられない。一本にしなければ、身體も承知しないし、抱主としても損だ。ところが、一本になるには衣裝代から、お祝ひ、三味線から新らしくとなれば千圓の金はなければならない。それで、何うしても旦那をつけるといふことになる。今年になつてから、いよ〳〵話が具體的になつて來たな、とちらほら話を聞かぬでもなかつた。僕としても、この問題ばかりでなく、總べてのことが不愉快でたまらなかつたのは、先つきの話の通りさ。僕はもう絶望的になつてゐた。何うにかして荒療治をしなければならない。と言つて、今度のも止めたばかりでは仕方がない。僕の方でやらなくとも他でやれば同じことだ。さう思つた。

然し、僕はまだ決斷し兼ねてゐた。ちぐはぐになつてゐた頭を抱へて、暗い氣持ちで二三日を過した。恰度、雪の强い晩だつた。ポプラの抜を鳴して、日本海を洗つて來た冷たい風が、矢彈のやうに早く走り通つた。その度毎に、粉雪

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が煙のやうに霞んで飛んで來た。晩になつてからは、殊の外酷かつた。硝子窓からは外の方が見えないばかりでなく、その隙間からは火の子のやうに小さい雪のかけらが、次から次へと入り込んで來てゐた。皆は寒さに慄へた。

雪橇に乘つて、F市の山岡が來るといふ知らせがあつた。工場主で有名な新物喰ひの五十爺いだ。例の惡形のデブ式だ。僕は、頭を打たれたやうな氣がした。この人は座敷がかゝつてゐて、夕方から僕の方へ來てゐた。妙だ。覺悟はしてゐたものゝいよ／＼來るとなれば、こと新らしく頭を打たれたやうな氣がする。あのデブ式が。因業な奴だと思ふ。僕はこんなことに平氣になれぬものだらうか。と今更らしく思つても見た。他人の頭痛だ、とも思つて見た。野暮な男だと自分を冷笑しても見た。生半可なセンチメンタルだと思つても見た。が、さう思ふことはいゝことではない。——僕は帳場の炬燵を離れて、玄關の方から、應接間の方へ歩き始めた。玄關には誰もゐなかつた。客も五六組しか、それも三人五人の小人數ばかりなので、何處に這入つてゐるか分らないやうなものだつた。』

『應接間の方から、若い女が泣き叫ぶ聲が聞え始めた。苦しさに耐へ兼ねた悲鳴だ。この人の聲だといふことが直ぐ分つた。

「何うしても訊かんのかい。私達の言ふことを訊かないなら、訊かないで、もう我慢が出來ない。お前には何千圓のお金がかゝつてゐます。それを直ぐとお返しなさい。」

「私は淫賣をする爲めに、身を賣つたのぢやないんでせう。私も人間です。舞子だつて、金で買はれてゐたつて人間です。品物ぢやないんです。」

それから直ぐ、抓められた時のやうな悲鳴が聞えた。僕は思はず、應接室の扉の方へ進んでゐた。扉を少し開けた。——今度は、耳を引つ張る場面だ。而も、その耳を引つ張つてゐる、僕の眼で見れば魔の手であるところのその手の持ち主は、僕自身の叔母である。この人は、その時いきなり耳を振りはらつて、扉の方へ逃げ出しにかゝつた。元氣のいい逃げ方だつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「お前は、矢張り信三と――僕の名だ。――喰つ附いてゐるんだね。あの仙人野郞と……」

さう言ひながら後を追ひかけて來た。

それから後の記憶は、僕は可なり不明瞭な點もある。僕は、餘りに興奮したせゐであるか、叔母の懷へ飛んで行つて、この人を奪ひとつたことを憶えてゐた。それから何でも、一とわたり叔母や、其處にゐた仲居や、姐株の藝者と摑み合つて、何うやら蹴飛ばした。素早くこの人に××街道の方へ走つてゐろ。と言つたことも憶えてゐる。幸ひ、帳場と應接間との間は可なりに間があるので、男達が出て來たのは、僕が奧の叔母達の居間へ行つた後だつたらしい。僕は直ぐ金庫を開けにかゝつた。金庫の中からは、抱へ藝者全部の貸金證書や、雇人達の矢張り貸金證書などを摑み出した。僕はそれを鷲摑みにして、裂きにかゝらうとした。が、美濃紙の束はなかなか裂けなかつた。それから、走り走りその部屋を出ようとした。何うしたことか不圖、その書類を佛壇の方へ投げつけて終つた。紙片がぱつと散つた。佛壇には、大きな蠟燭が二本、焰を伸ばしたり、縮ませたりして、明滅してゐた。それも僕の眼に留つてゐた。

僕はそれから、××街道の方へ、吹雪と鬪ひながらひた走りに走つた。A市の停車場へ行けば、直ぐ摑まりさうな感じがしたからだ。

吹雪の爲めに、街の何處も此處も、ひつそりとしてゐた。電燈の光りで、粉雪がちらちらと、息をも吐かず走つてゐるのが、かすかに感ぜられた。追手が來るやうな氣がして、僕は暫らく走つてから後を振り返つた。空が、眞赤に反映してゐて、煙が地面へ低く棚びいてゐるやうであつた。何處かの工場の警笛が、苦しさうな聲で、ボボボ……と金切聲を起した。終つたと思つた。が、その反面には締めたとも思つた。さう思ひながら、僕はB線廻りで東京へ行くことを考へてゐた。

前の方を、轉げるやうにして走つてゐる人影があつた。勿論、この人だつた。僕は時々後を振り返つた。焰はより一層盛んで、火玉が暗の中に飛んでちらちらと吹き流されてゐた。ボボボ……といふ、物の死に絕えるやうな警笛に胸を突かれながら、狂氣のやうに、この人を引つぱりながら××町の停車場の方へひた走りに走つた。』(完)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『世界語』比較小論（一）

——世界中で、異つてゐるものは、唯殆んど言語だけだ——アンリ・バルビユス——

佐々木孝丸

緒言　プロレツトカルトの一項目としての世界語研究

私はこれから、以下數號に亘つて、『世界語』(International language)の比較論評をして見たいと思ふのであるが、それに先だつて、一見如何にも學究的なものに見えるこの題目を拉し來つて、それをわざ〳〵、戰鬪的な本誌に發表する所以を、明らかにして置きたいと思ふ。

今や全世界に瀰漫しつゝあるところの無產階級解放運動に就ては、最早その運動の成果を、單に經濟的、政治的にのみ依據されるべきではない。全無產階級の當面の敵であるところの全ブルヂョアジーを倒潰させるためには、固より、經濟的、政治的組織の破壞が最もラディカルなものであるのは論を俟たない。然しながら、ブルヂョアジーがその牙城に備へてゐるものは、單に政治的權力や、現在の經濟組織だけではない。彼等は、全無產階級の蜂起を鎭壓するために、彼等の軍隊、彼等の警察を有してゐるばかりでなく、彼等自身が、彼等に都合の良いやうに作り上げた『文化』を持つてゐる。謂ひ得べくんば、側面攻擊に備へる遊軍としてのブルヂョアカルトを持つてゐる。然も、この遊軍の勢力と活動とは、屢々、本軍の活働や勢力よりも以上に、廣汎な力強いものであることがある。この遊軍は、種々雜多な形に變裝して、無產階級軍の陣營内にもぐり込み、あらん限りのあらゆる手段を構じて、無產階級の戰鬪精神を、或ひは戰鬪能力を消滅させようとする。

如上の遊軍に備へ、如上の勢力を驅逐するものは、又更に進んで、逆に敵の陣營の内部に喰ひ入るべきものは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無產階級に在つては、實にプロレツトカルトの運動でなければならない。私が今、無產階級解放運動の成果を、單に政治的、經濟的方面の運動にのみ依據されるべきでないと云つた理由は玆にあるのだ。

　プロレツトカルトの一般的意義及び狀態に就いては、本誌昨年九月號及び本誌本號世界欄を參照して貰ふことにして、私は今一足飛びに、緒言の本編へ立ち復へらう。

　プロレツトカルトといふ言葉は、最早、單にハイカラな通人や辭書的學者の腦味噌の中に巣喰ふヴオキヤブラリーの中の一語ではない。吾々は、この言葉を如何に實際化し、亦、如何に實行すべきかを考究しなければならない。

『何故プロレツトカルドが……?』ではなく『如何にプロレツトカルトを……?』でなければならない。否、單に『如何に?』を考究するだけではなく、直ちに實行に移されねばならない。それは、ブルヂヨアカルトが根を下ろしてゐる限りの全域に亘つて實行化されねばならない。演劇に、文學に、繪畫に、彫刻に、乃至一般的教育に、この無產階級の遊軍が活動すべき範圍は實に廣汎である。そしてそれ等のものと共に、プロレツトカルトの實際運動の一項目として、見逃すことの出來ない重大な一部門がある。それは『言語』の問題である。就中、『世界語』(International Language)の問題である。

　無產階級を壓伏しようとするブルヂヨアジーの戰線は、最早單に一國內には止まらない。云ひ換へれば、ブルジヨアジーとプロレタリアとの對戰區域は、地球の全面に擴がつてゐるのである。共處に、ブルヂヨアインタナシヨナルが出來上るのは頗る當然のことである。そしてそのブルヂヨアインタナシヨナルの活動は、これ亦、政治的に、經濟的に全世界の無產階級を屠るべく牙を磨いでゐるのであるが、それと同時に、彼等の所謂『文化』の遊軍を巧みに驅使しようとする。亦、現在彼等の手に握つてゐる政治的、經濟的權力を利用して、彼等に關係ない創造された獨立した文化をも、彼等自身のものにしようとする。國際聯盟が『國際語』としてエスペラントを採用することに決議した如き、また、萬國基督教同盟が(あらゆる宗教團體は王冠と寶石との番犬である!)エスペラント運動を反革命運動に利用しようとした如き、卽ちその一例である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ところで、これに對抗する全世界の無産階級が、直接に、仲介者なしに、お互ひを了解し合ひ、手を握り合ふためには、彼等のうちのいづれの國語にも屬さない、獨立した、然も最も了解し易く、習得し易い『世界語』が必要である。

ソヴエツト・ロシアが、その成立と同時に『世界語調査會』を設けて、無産階級に最も適切な『世界語』を檢討させたのは、頗る當然のことゝ云はねばならない。偖、この『世界語調査會』が決議し、且つ政府當局が採用した世界語は、昨年の報道によれば、『イド』(Ido)であるとも云はれ、『エスペラント』(Esperanto)であるとも云はれてゐる。私としては、この一見矛盾した如くに見える二つの報道を、兩方共信ずるものである。といふのは、『イド』と『エスペラント』とは、姉妹語であるのみならず、一方を了解し得るものは、容易に他の一方をも了解出來る言語であつて、理想的に云へば、將來この二つの言語は、各々の特質のみを合して、更により良き言語となるべきであると思ふからである、ロシアがこの兩者のうちいづれを採用したかといふことに就いて、吾々の手許に屆く報道は、ファナチツクなエスペランテイストや、イディストの巧みな宣傳がその中に含まれてゐるのであることを知つてゐなければならない。

とまれ、無産階級のための世界語の問題、即ちプロレツトカルトの一項目としての世界語の問題は、今日、吾吾が是非共眞劍に研究すべきことであらうと思ふ。私が、言語學者でもなんでもない私が、敢てこの小論を書かうとするのは、上述の如き意味に於て、無産階級の立場から、現存せる『世界語』を比較檢討して見ようとするのである。然しながら、それは私にとつては餘りに大きな問題である。生意氣至極なことである。然し、未だ曾て日本に於て誰もこれをしてゐない。私はやがて、私よりももつと識見ありもつと蘊蓄あるプロレタリアフロジストがその研究を發表されるであらう時を期待しながら、この小論をそれの口火たらしめんとするに過ぎない。そして寧ろ、讀者と共に研究して見ようとするに過ぎない。

猶ほこの小論を草するに當つて、私は主に左の諸著を參考した。

Pr. A. L. Gu'erard: A short History of the Interna'ional Language movemet.

E. Cefee: La Elementoj kaj la Vortfarado.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Dr. L. Zamenhof: Fundamento.
E. Privat: Vivo de Zamenhof.
K. Ossaka: Historia Videto de Homaraj Lingvoj.
K. Ossaka: Meminstruo de Ido.

一、自然語と人工語

茲に云ふ自然語 (Natural Language) とは、日本語、支那語、英語、佛語、獨語、露語其の他一般の『國籍を有する』言語のことである。即ち文字通りに『自然に出來た』言語である。一國民の間に於て、若くは一民族の間に於て、その習慣、風俗と共に發生し、共に發達した言語のことである。更に分り易く云へば、自然語とは、『發明』によつて出來たのではなく、寧ろ一國民全體か、若くは一民族全體が、その意志表現に際して、自然に同じやうな方法を採つた結果の產物である。

如何なる國民にとつても、又如何なる民族にとつても、自國語が最も容易いものであり、自分の民族の言語が最も自由に操れるものであるのは、固より論を俟たない。

然しながら、自國語が最も容易く、最も自由であるといふことは、自國語と似てゐない他國語が最も困難なものであり、他國語が最も不自由なものであるといふことになる。そしてそれは事實である。如何なる國民にとつても例外なく事實である。そして各國民は、各民族は、實に長い間、この困難、この不自由と鬪つて來たのであつた。世界歷史初まつて以來、異つた言語を用ひる二個以上の國が在つた場合には、其處に必ず、この困難さとこの不自由さがあつた。

この困難とこの不自由から、如何に數々の忌むべき慘ましい事柄が起つたか、それは吾々が、吾々の周圍を見たゞけでゞも分る。同じ日本語でありながら、なまりが違ふために、テニオハが違ふために、或る地方の者は或る地方の人の方言を嗤ふ。然も嗤ふ方の方言も亦更に嗤はれる！ これはほんの一些事であるが、兎も角、斯うした言語の相違といふところから來るあらゆる不自由とあらゆる禍ひを妨がうとするものは、先づ第一に言語の『統一』といふことを考へるであらう。然しながら、言語の統一といふことは、それが自然語そのまゝのものの統一であつた場合、即ち、或る一箇國の言語を以つて世界の共通語にしようとする場合、それは斷じて成立しないものである。さうした意味の言語統一には、必ず、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

必然的に、或る一箇國の『優越』や『野心』や、『征服』が伴なふものである。試みに例を引くならば、或る一箇の自然語が、多少とも世界語らしい我觀を備へるやうになり初めたのは、第十三世紀の初頭に於ける佛蘭西語であるが、これとても、ラテン語の次位に屬するものであり、その普及の範圍は全く西部歐洲のみに限られてゐた。然もそれは、單に佛蘭西語が言語學的に立派なものであるからといふのではなく、佛蘭西といふ『國家的勢力』の影響であつたことを見逃してはならない。その證據には、英國がその國家的勢力を擴張するやうになると、忽ち、佛蘭西語の地位は英語に取つて代られたではないか。

一歩を讓つて、國家的野心なしに、或る一つの自然語を普及し得られるものと考へよう。そしてそれを世界の共通語たらしめ得るものと考へよう。然る時、その國語の屬する國の國民は實に得意であらう。そしてその國の國民以外の人間は、如何に侮辱を感ずるであらうか？ 亦、如何に嫉妬心を起すであらうか？ 嫉妬と卑下は、あらゆる進歩を妨げるものである！

一箇の自然語をそのまゝ取つて來て直ちにこれを世界語たらしめることの不可能な證左は、數へ上げれば際限のないものであるが、要するに結論として、『世界語』を欲するものは、『人類語』を欲するものは、『自然語以外の中立した』言語を求めねばならないといふことに一致するする筈だ。自然語以外の、中立した言語とは何か？ それは人工語でなければならない。聖書豫言者ツエフアニアーは、既に二千年の昔、このことを云つてゐる。

人工語（Artificial Language）が、中立的であつた場合、それは直ちに人類全般に共通な『世界語』となり得るであらうか？ 否、人工語に、單にそれが人工の（Artificial）言語であり中立の（Neutral）言語であるといふだけの理由では、斷じて世界の（International）言語であり得ない。一つの言語が世界語であり得るためには、大體、次ぎの緒要素を具備してゐなければならない。

A 容易であること、

B 簡單であること、

C 組織的、規則的であること、

D 自由であること、

E 言語としての善と調和を持つてゐること、卽ち藝術的であること、

この外にも色々な要素が必要であるが、特に以上五つの要素は是非共含んでゐなければならない。このうちのどれ一つが缺けてゐても、世界語としての生命は保たれない。即ち、誰でもが自由に操れる(D)やうに出來てゐるものであつても、その代り規則的、組織的(C)に出來てゐないならば、習得に困難であるし、その逆に、極めて規則的に出來てゐるものでも、規則に縛られて、自由に採つることの出來ないやうなものでは何にもならない。

偖然らば、これ等の要素を具備した完全な人工語といふものが存在するであらうか?

人工語の必要を說き、世界語のやがて現はるべきを說いたのは、前にも云つた通り、二千年前の聖書豫言者ツエフアニアーであつたが、それは今日の吾々にとつては、あまりにおとぎばなしめいてゐる。近代に於て、初めて相前後して人工世界語の案を立たものは佛の哲人デカルトであり(註一)獨の哲人ライブニッツである。(註二)

その後、十七世紀の半ば頃より今日に至るまで、世界語に關する全て百數十の立案提議、並びに運動が現はれた。そしてそれら百數十の『共通語』を、大略左の三つに分類すゐことが出來る。(註三)

一、全然 aprori に作り上げたもので、文字といふよりも寧ろ象形に類するもので、モールスの電話符號の如きもの。即ち發音の出來ないものである。『萬國共通』ではあり得ても、『言語』ではあり得ない。

二、(一)より(三)への過渡時代に多く見受けられたもので、自然語と人工語の接合がうまく行なはれず、一種の畸形的な姿を持つてゐた言語。十九世紀末獨逸に起つて、稍々世界語としての普及性を見せかけたことのある Volapük などもこの部に屬する。

三、人間が實際用ひてゐる自然語を基にして、aposteriori に考察したもので、言語としての完全な生命を持つてゐるもの。

以上の三つの分類の中へ這入る百數十の『中立語』の中で、色々な點から見て、『世界語』として果して他の自然語よりも、よりよき要素を備へてゐるものがあるであらうか?

第一、第二の部に屬するものは既に滅びて了つて、辛うじてその不確な文獻が幾等か殘つてゐると云ふに過ぎない。隨つてそれ等は問題でない。たゞ、今日吾々が大

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いに研究して見なくてはならないのは第三の部に屬する言語である。この言葉とても、數十の多きに上つてゐるのであるが、そのうち眞に言語として行なはれ得たもの、亦現に行はれつゝあるものは、Esperanto を筆頭に、Ido, Romanal, Interlingua の四つである。

自己の最初に習得した言語にのみ執し、或ひは自己の崇拜する人物の言葉のみを妄信して、或ひはイド (Ido) を以つて最も嘉しと見るものにも、亦或ひはエスペラント (Esperanto)を以つて最善なりとするものにも、私はそのいづれにも組しない。私は出來得る限り公平な立場に立つて、といふよりも來るべき新社會の文化を創造すべき無産階級の立場にのみ立つて、以下この四つの言語を『發音』『文法』『語彙』の諸項目に分ち、更にその各々の細目に亘つて、比較研究をして見ようとするのである。

註一 Descartes: Leitres a l'Abbe' Mersanne. -1629.
註二 Leipniz: Diserfatio de arte combinaroria -1666.
註三 Gaston Moch 氏の分類法による。

勞農婦人の印象

鈴木茂三郎

一

莫斯科停車場の歩廊に巴里の新聞記者ロージャン君と私の二人が淋しくとり殘された。リガから乘つて來たソヴイエツト・ワゴンで友達となつた農村電化委員の技師やエストニヤ領事やそれから此の鐵道の管理委員長フイツシャー君などが一團の乘客と狹ひ出口を雪崩をうつて出て行つてから、もう三時間になる。

歩廊は眞暗だ。噴煙のやうに粉雪が降つていた。投げ出された鞄の上に私と彼は脊を向けて腰掛け驛の中の動搖を眺めてゐた。煤つた灰色の建物は電燈が輝いてゐて伯林あたりの停車場よりも明かつた。眞中の改札口に乘客が犇めてゐる。田舍行きの汽車が發車するのだらう改札口で切符を見せると燕のやうに歩廊を斜に向ふへ馳け出すのだ。百姓さんらしい婦人が小麥粉の南京袋を脊負つてヨチヨチと走る。汚ない風呂敷を冠つて血色の好い太つた頰をユラユラと搖すぶつて馳ける。四斗樽位ゐの偉大なるお尻が鶩のやうに躍る。ロシアの婦人には瘠馬は居らない。豪壯と豐滿を思はせる體格の所有者ばかりだ。

雪靴を穿いて其れに覆ひかむさるほど長い更紗のスカートに外套に包まれた腰のあたりをよくよく見ると、それは菰冠りの酒樽そのまゝである。

何んにせよ羨ましい體格だ。

發車の騷擾が靜まると私は驛の建物に沿うて檻の中の狐のやうに歩廊を歩いた。靴の底からアスファルトの寒氣がはひ上つて來る。

頭髮が針のやうに腦の味噌を突き刺してくる。怖ろしい寒さだ。凝つとしては居られない。すると驛の隅の明るい硝子の前に私の獨逸靴が膠着した。硝子窓の中の生生として活畫のやうな光景の前に立ちすくんだのだ。そこは驛の電信室であつた。十五六人の婦人が發信機のボタンを叩いてゐる。二三人の事務員らしい婦人が机にペンを走らせてゐる。机の間を給仕らしい女が蝗のやうに動いてゐる。足の運び、電光のやうな手の動き、凝つと見詰める眼、「何んたる敏捷な動作だ。さつきの百姓さんの鶩も女なら之れも女だ。何んたる勇敢な働きだらう。部屋一杯に生氣が溢れてゐる。それに仕事に對するあの眞劍さは怎うだ。」私は息詰るやうにさへ思つた。どれも若い婦人だつた。頭髮は下げ髮のやうに切つてゐる。櫛を横つちよに差し込んだのもある。オールバックもあれば七三に分けたのもある。

服裝は質素だ。胸には共産黨員の徽章を赤く光らせてゐた。「勞農婦人の勇敢な活動」は私の最初の驚きであつた。フイッシャー君が迎へに來てくれるまで私と彼は其の驚きを相互ひに驚き會つたのである。

二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リュックス・ホテルにはゴーリキー夫人がゐた。間もなく夫人は伯林へ立つたので私には深い印象が殘つて居無い。たゞ靜かな寂しさうな婦人だつたやうに記憶してゐる。

社會大臣コロンタイ夫人の書記クフシン夫人ともう一人の婦人と私は食堂の友達になつた。二人はコロンタイ夫人の右腕であり左腕であつた。其のもう一人の婦人の名を覺えて居らないが私よりも脊の高い頑丈な體格を持つてゐた。そして剃刀のやうな銳さを持つてゐた。どちらも體格と血色の好い顏が似通つてゐたので、私はよく間違へて笑はれた。クフシン夫人は大抵は子供を伴れて食堂へ來た。

「此の子供は子供ホームへ預けておいたのですが少し神經質でしてね、でももつと早く預けるとよかつたのですが、革命の來たより子供の成長が早かつたので困りました。でももつと大きくなれば神經質に負けないだけの體力が出來たら、きつと子供ホームを喜ぶやうになりますよ。だつてどの子供だつて土曜などに家庭へ戻つて來ますと肥つて元氣で見違へるやうに美しくなつて、子供ホームの樂しさを話しますからね」夫人はさう云つて五つばかりの子供の頭を撫でてやつた。子供が羞耻かんだりすると「お前は來年になると幼稚園へ通ふんですよ、學校はお前たちのお家だからね」林檎の頰に口吻したりした。

或る日ホテルの圖書室で婦人インタナショナルの會合があつた。和蘭の革命婆あさんや蒙古の新聞記者で蒙古共產黨の代表者の婦人などが議長席に据つた。議事はバクーに開かれる近東婦人第二回大會の事であつた。

「巴爾幹の婦人は長い間ベルで顏を包んでゐました。頭には風呂敷を冠つてゐました。しかし露西亞革命とそして革命後の勞農露西亞の婦人の地位とは彼女等を强く刺戟しました。ロシア大陸に吹き荒れた革命の暴風は、彼女等のベールと風呂敷を吹き拂つたのです。眼覺めた彼女等はベールと風呂敷を、其の手にかなぐり捨てゝ敢然と起ち上りました」之れは蒙古婦人の報告の一とつであつた。

此の報告にもあるやうに勞農露西亞の婦人の地位は確然として搖ぎ無いものである。結婚法はもとより男女平等である。教育、職業、待遇……何んにだつて性的の區別は無い。——ＷＷのヘイウッドと米國共產黨のカール

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とがホテルの讀書室でこんな茶話をやつた事がある。
カール「いや無いことは無い。何にか性的の區別があつた筈だ」
ヘイウツド「さうだ、どうすることも出來ない體力の區別だ」
カール「其れと待遇上の相違がもう一つある。産婦の保護に關する法令と優遇される事だ」

新聞係の婆さんがプッと吹き出した。此の婆さん却々の豪者で七八ヶ國の言葉を操る。「アナタタレ、サトー」などと書いて私に話しかける。私が讀書室へ這入ると婆さん「日本語を一つ教へろ」と強請んで承知しない。「日本語一つが私の閲讀料だ」私はよく笑つたものだ。二階の廿五號室に十六歳の夫人が居た。紅茶の御馳走が有難かつたので、私は度々と扉をノックした。ボリシエヴイキ革命がロシア婦人に與へた影響として、「姦通が無くなつた。何故なら姦通の最も多かつたブルジョア階級が消滅したからだ。其れに姦通するすべての原因が根絶したからだ。賣春婦もさうで、離婚の手續は簡單になつたがしかし離婚の數は多くならない。結婚は容易になつた。だから私なども十六で私の愛する男と結婚が出來たのだ」とお了ひには惚氣られたものである。それが手離しだから恐れ入る。飛んだ紅茶の御馳走になつた譯だが、然し惡るく無い話だ。胸が晴々したやうに覺えてゐる。

三

婦人インターナショナルの地下室で舞踏會があつた。私は革命座の連鎖劇が撥ねてから二三人で飛び込んだ。裝飾の無い廣ひ部屋には三百人ばかりの同志が躍つてゐた。トロツキー夫妻は何處に居るか分らなかつた。人波の渦巻きに巻き込まれてゐたのだらう。ブハーリン夫妻はすぐと知れた。コロンタイ夫人クフシン夫人も居た。誰れもいつもの服裝であつた。東方共産大學女教授、「第三インターナショナルの名譽の名に於て出來た子供の小市」の小學校の女校長など私の顏染みの婦人も多く居た。婦人インタナショナルの受付の若い女、リュックス・ホテルの掃除女なども日本晴れの天氣で躍り狂つた。男女の一と組づつが卵形の圓陣をつくつて躍るのだ。或は陣形を崩して亂舞するのだ。いつも入口の角で劍銃を持つて張番する赤兵の一人がコロンタイ夫人と腕を組んで暫らく躍つた。社會大臣と兵士。寄想天外より落つる取

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

組ではあるが、然しそれを不思議さうに眺めたのは私一人に過ぎない。誰れもがそれを不思議としないところを私は嬉れしく思つた。

舞踏會の次ぎの日だつたか莫斯科の小ひさい町の主婦の會に出掛けた。家庭勞働の社會化、母性保護に關する研究、子供の教育、乳兒の發育に關する研究などが主題である。文部省や社會省や共産黨の婦人部から必ず婦人連が出席する。そして意見も吐くそして指導もする。が多くは聽き手の役目で、お神さん連の討儀、意見を謹しんで拝聽するのだ。

女子職業學校、婦人講習會、托兒所、學校、産院、と婦人や子供に對する多くの施設を視察したから多くの婦人と面接した。さういふところはすべて婦人の手一つに行はれてゐる。

其等の婦人に對する私の印象は、婦人がよく働く事だ。ソヴィエット會議、各種の委員會、社會事業、工場、あらゆる方面に婦人が多く働いてゐる事だ。質素な事だ。男と女とが尊敬し合つてゐる事だ。親切で愛嬌があつて威張らない事だ。婦人の力がほんとうに現れてゐる事だ。婦人の教養がグン／＼と筍のやうに伸びて行く事だ。

平林初之輔氏に

——『ごろつき論』に關して——

尾崎士郎

『種蒔く人』第十一號に掲載された中西君對平林君の『ごろつき』に就ての係爭を僕は異常な重要さをもつて讀んだ。それは概念の問題であるよりも寧ろ事實の問題として、少なくとも現下の社會主義運動並びに藝術運動の

上に特殊の重要さをもつてゐると信ずるが故である。最初平林氏に對する僕の論難的態度を明にするためにこの係爭の中に僕が闖入した由因を明にする。そしてそれは同時に平林氏に對する僕の非難の全部ででもあるのだ。

『社會主義運動の中に働らくことの嫌ひなごろつきや食ひ倒しがまじり込むと同じやうに階級藝術運動の中にも文藝のいろはもわきまへない連中がまぎれ込む』以上の平林氏の言葉が中西氏の非難の焦點であるらしい。中西氏は曰く『何といふブルヂョア的な口吻であろう(中略)平林君の言はれるごとき人達は現在僕たちの周圍にうようよしてゐる。――さうした失業勞働者は餓死か破壞か二者何れかを選ばなければならない悲しい人々であるのだ云々』と。此の中西氏の抗議に對して平林氏は『ごろつき』といふ言葉が中西氏の指摘するやうに失業者といふやうな概念ではなく文字通りの『事實』であることを釋明された。平林氏は曰く『不幸にして社會主義者と名乘つてゐる不良青年組や何ぞと言へば日本刀を振り廻すやうな連中のあることを吾々は知つてゐる。』と。以上の平林氏の釋明に從へば文字通りの『事實』とは『社會主義者と名乘つた不良少年組』や『何ぞと言へば日本刀を振り廻す連中』のことである。

此處に改めて斷つておくが僕は今更新らしく『ごろつき』といふ言葉の定義を見出さうとする者ではない。僕は唯社會主義運動の中に含まれたゴロツキ的分子を驅逐しようといふ平林氏の論旨の中から不徹底な部分だけを追求すれば宜いのだ。

僕は平林氏が指摘したごとく中西氏が『ごろつき』を失業勞働者のみと斷定したことの誤りである事實を承認するとともに、平林氏が失業者と『ごろつき』との間に確然たる境界線をつくりあげたところの同じき概念的斷定を僕は見逃がす事が出來ない。何となれば、僕はこれ等の多くの失業者の中から平林君の所謂不良少年組に屬すべき『ごろつき』の輩出した事實を知つてゐる。同時に階級運動の落伍者の中から、これ等の『ごろつき』にも等しい無賴漢の輩出したことを知つてゐる。しかし、そんな言葉の上の問題はどうでも宜い。そして、彼等の心的傾向がさう簡單に罵倒し去らるべきものであるか否かは自づから別の問題として、僕は彼等の行爲が、と言ふよりも彼等の存在が平林氏の言ふが如く健全なる勞働大衆をして社會主義を誤解せしめ、それがために社會主

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

義運動が阻害された事實を承認することを聊かも躊躇しようとする者ではない。けれども、平林氏よ。かくのごとき不良無賴の徒によつて健全なる勞働大衆の禍されることを悲しむ吾々は、そんなことよりも、もつと根本的にそして、もつと本質的に社會主義運動の健全なる發達が阻害されてきた。そして現に阻害されつゝある事實を認めなければならないのだ。そしてその事實を破壞しなければならないのだ。それは現在日本の社會主義運動の中堅であり先驅者であるところの、運動家、學者、論客――すくなくとも低徊的な論理の概念的遊戲に沒頭することに依て運動を功利的に職業化しつゝあるところの老朽社會運動者――それはある意味において現在階級運動の中心に立てる人々の大部分に適用される言葉であるが――を一掃し去ることである。彼等の無責任な行爲がいかに日本の社會主義運動の中からいかさまな不良少年の多くを輩出せしめることに役立つてきたか。そして彼等がいかに運動の純化を阻止したか？ 平林氏よ。これは概念ではなくて事實であるのだ。社會主義者と名乘つて勘定を踏み倒したり、日本刀を振り廻して大道を歩いたりするやうな連中が若し『ある』としたところで、其主義を禍する『ごろつき』たる點において僕は兩々の間に逕庭を見出すことができない。否寧ろ其卑劣さにおいては物の數にもならぬ文字通りの『ごろつき』の方がいかに生やさしいか。平林氏の引用したマルクスが『いかさま社會主義者の合成分子』と言つた言葉は必らずしも、千束町界隈を肩に風切て濶歩する何々勞働黨の壯士を指してのみ言つたのではないであらう。僕は『ごろつき』といふ『概念』の中から失業勞働者はおろか社會運動者といふ『現實』をすらも引張り出さなければならなくなつたことを悲しむ者である。

尾崎氏に答へる

平林初之輔

前おきを抜きにしてすぐに尾崎氏の『不徹底な部分の追及』に答へる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

尾崎氏によると、僕が失業者とごろつきとを判然と區別したのは「概念的斷定」であつて、事實に反するといふにある。その理由として氏のあげるところは、「失業者の中からごろつきが輩出した事實」を知つてをるからといふのである。尾崎氏のあげたこの理由」が如何に薄弱かといふことは、一寸別の例を考へて見ればすぐにわかる。「學者と盜人とは別のものだといへない、何となれば學者の中からも盜人がでる」……「代議士と醫者とは區別できない、代議士の中にも中原や金杉のやうな醫者がある」……此等の推論はいづれも「事實」に立脚してゐる。併しながら吾々は「學者」と「盜人」「代議士」と「醫者」とは別々「概念」に入れる。私が「ごろつき」と「失業者」とを飽くまでも判然と區別するのもそれと同じ理由である。なるほどそれは尾崎氏の言はれるやうに或る意味で概念的斷定である。おまけに或る意味では事實に反してゐるかも知れぬ。何となれば事實上「失業者」も世間なみの人間であつて見れば、全部聖人君子ではないから中には無賴漢もごろつきもあるだらうからである。

けれどもこんな「事實」がごろつきと失業者の區別の妨げになるだらうか。強盜や人殺しが勞働者の中にもあるからといつて吾々は強盜や殺人を容認せねばならぬだらうか。私は尾崎氏の非難の趣旨を解するに苦しむものである。資本主義社會の組織そのものから必然的に產み出される失業者と道德上の罪人たるごろつき(僕はこの言葉をさう解してゐる)とを判然と區別するのがブルジヨア的の考へ方か或はその區別をぼんやりさせて失業者とごろつきとを一緒にしてしまつたり、甚だ緣の近いものだとするのがブルジョア的の考へ方かは明瞭だと思ふ。

ところが尾崎氏は「ごろつき」といふ概念を更に布衍して、「社會運動者」そのものをもそれと同一視しようとする。式であらはすと

ごろつき＝(失業者＋社會運動者)

といふ事實を氏は認めて遺憾とするのである。若し、社會運動者の一部にごろつきが混つて來たらそれは排すべきだといふのなら私の言葉とちつともかはりがないのだから文句はない筈だによつて氏はどうしても社會運動者が全部でごろつきだといふのであらう。それが「現實」だといふのであらう。併し私ははつきり言つておくが社會主義運動者、失業者、ごろつき、この三つは別々の概

念であり、又事實であり、その中でごろつきだけを排しようといふのである。それが失業者だらうと、官吏だらうと、文學者だらうと、小說家だらうと、商人だらうと。ごろつきといふ文字に「失業者」といふ觀念が必然的に含まれてゐるなら、僕は躊躇なくあの言葉をとりけす併し、僕はこれまでそんな用語例は皆目知らなかつた。今でも知らない。僕があんなことを書いたのは社會主義運動者の規律のためであつた。それが一たん「釋明」したあとでまだ中西君の場合よりも一層念入りな誤解に遭遇しやうとは思ひもかけなんだ。しかしあとの方で見ると似而非社會主義者を排せよといふ點では氏もどうやら異存はないらしい。さうなると氏の非難の要點がどこにあるのか僕にはさつぱりわからぬ。たゞ僕はそれを簡單に「ごろつき」と言つたに對し、尾崎氏は「文字通りのごろつき」と文字通りでないごろつきとを區別した點がちがふだけである。氏がどんな區分法を採用されようとそれは私には一向關係のないことだから、自分でこしらへたヂレンマを私に向つてさあどうだなどと答へを求められたつて私は一々お答へしなくともよいと思つてゐる。たゞ原文を讀まぬ人にとんだ誤解をされちや迷惑だから重ねてお答へした次第である。

「無産階級の文化」の會

二月廿四日の午後から市川の松桃園に開かれた無産階級の文化の會は今までのそうした催とは趣を異にし、市川に病める平林初之輔君を慰安する意味のものであつた。それだけ極く內輪の溫みをもつたしんみりした集ひであつた。

堺利彥、秋田雨雀、小川未明、前田河廣一郎、矢津九郎藤森成吉、宮地嘉六、細井和喜藏、山口氏門の諸氏や又種蒔き社からは季吉、弘二、孝丸、日乃樹、小牧等の顏が見えた。洋文から電報があつた。

平林初之輔君の「無産階級の文化」が最近の日本文壇にどれだけの役割を演じたかは、それをこゝにいふ必要がない。「だが、もう文壇の運動だけでは駄目だ。これら我々は社會運動そのものを目標として進まればならぬのだ」といふのが平林君の挨拶であつた。

先達凶暴なる愛國狂に刺され、幸にも全快の嬉びを見せてくれた堺利彥、秋田雨雀、前田河廣一郎の諸氏はそれぞれ平林君のために、又、今後のわれわれが進む可きことについての適切な意見を述べられた。まんまるになつて、のんびりした半日を過し、孝丸の音頭でインタナショナルを歌ひ、日が全く沒してから散會した。居殘つた種蒔きの同志はその足で內助の人平林夫人を訪れることを忘れなかつた。平林君はいたつて元氣だ。何よりも先づ、このことを讀者諸君にお傳の出來ることをよろこぶ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

赤列車

桃色の兵隊

――京城所觀――

中西伊之助

昨年の春、僕はKと云ふ友人と二人で、京城の街を歩いてゐた。もう四月近い頃で、朝鮮でも、解氷期になつて、赭色の禿げ山にも、生温い風が吹いてゐた。

僕はかうした頃の朝鮮も好きだ。――僕は朝鮮の四季の情趣を書くたびに無性に朝鮮が戀しくなる。春、夏、秋、冬と、僕にはその折々の朝鮮が、涙ぐましいほど僕の追憶の世界にせまつて來る。――

その時は、A洞と云ふところに住んでゐるある僕の友人の『不逞鮮人』をたづねて行くのであつた。このへんは、昔の王城のあつたところで、古典的な建物が、五彩の美しい色を、圓みのある春の光の下に息づかせてゐた。

とある廣場があつた。僕はふとその前面を眺めると、思はずほゝ笑んだ。そこには、十數人の、小さい桃色の兵隊が、分列式をやつてゐたからである。が、ふとまだ僕は暗い心になつた。この小さい桃色の兵隊の前途は、果してどんなものだらうと思つたからである。

桃色の兵隊と云ふのは、この國の幼年達が、淡紅の筒袍と同じ袴をつけて、肩に棒切れを擔ぎながら、兵隊ごつこをしてゐたのである。日本の子供のやうに、まちまちの着物の色合ではない。みんな揃つて桃色の着物だ。桃の花の精がとび出して來たやうに、愛らしく、美しい。

中の一人が號令をかけると、彼等は正しく列を作つて、おち、にい、と云つた風で、分列式をやる。小さい麻の草鞋をはいた足並が、器用に揃つてゐる。僕はその小さいミリタリストの群を見た時、ほゝ笑んだ僕の顏が、どうしても暗くならないではゐられなかつた。……

僕は現實の力を信ずる。虐げられたものは、その自己の現實の力で跳ね返すより、到底外に途はない。そして

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その力は、自己解放のための力でありたい。決して他のために利用される力であつてはならない。

ロシアの子供は、プロレタリアンカルチベエションによつて愛撫されてゐると云ふことだ。僕はロシアのあの革命が、未だ到底僕等の思念する領域に達してゐないことは知つてゐるが、たとひ嘘にも、この地上にさうしたことが行はれてゐると云ふのは、僕等の暗い心を、なにか明みに誘ひ出して行くやうな氣がされる。それほど、僕等は『現實』の自由にあこがれてゐる。

——一九二三、三、八——

ブランキズム

佐野袈裟美

革命家ルイ・オーギユスト・ブランキは、一八〇五年フランスに生れた。彼は革命の理論家ではなくして、革命の實際的な活動家であつた。彼はその爲めに幾度か牢に入れられた。

彼は初めは普通の共和主義者に外ならなかつた。一八二四年から一八三〇年頃迄は共和黨の運動の一員として忠實に活躍してゐた。チャーレス十世を追ひ出した一八三〇年の革命には、彼は勇敢に戰つたのであつた。然し共和政は來らなくして、他の王を迎へることになつたに過ぎなかつた。當時ブランキは、有名な共和黨員であるカベーニヤックによつて率ゐられてゐた「人民の友」といふ團體に加はつた。そして一八三二年にこの團體の出版物のことで裁判に問はれるやうになつたのであるが、審問の際ブランキの答辯が裁判官の反感を買ひ、その爲めに一年の禁錮を宣告された。これが、彼の生涯の大部分を牢獄で過すやうになる最初の經驗であつた。

一八三八年には彼は恐るべき秘密結社を組織した。そしていよ〱時機が來たといふので、一八三九年の五月の十二日に全會員が召集された。六百ほど集つた。ブランキは簡單に政府を襲撃すべきことを布告した。小銃を掠奪して武裝し、先づ警察本部を襲ひ、ついで殆んど防備のない市廳をわけなく占領した。しかしそれは一時で、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

直ぐ彼等は打ち敗られてしまつた。そしてブランキは五ケ月たつて捕へられ、死の宣告を受けたが、終身懲役に減刑された。一八四一年に彼の妻は二十六で死んだ。一八四四年には彼の健康はひどく衰へてその十二月には死にさうになつた。彼は病院へ移された。彼の健康は不思議にもだん／＼恢復して行つた。然し一八四七年迄は牢獄の病院を出ることが出來なかつた。一八四八年にパリの民衆が蜂起して、ルイ・ヒリツプを追ひ出した。彼はパリへ急いだが、彼の着いたときには、最早鎭つた後であつた。

新政府にブランキは容れられなかつた。新しい議會が開かれると、それに對する示威運動が行はれた。ブランキもそれに加はつて、議會に押し寄せた。然し政府は軍隊の力によつて、群衆を解散させてしまつた。ブランキは再び獄につながれることになつた。一八四九年の三月ブランキ等の裁判が開かれた。ブランキは勞働者の爲めに、政府に對する挑戰的な辯論を試みた。ブランキは十年の禁錮の宣告を受けた。然し今度は寛大な條件のもとに置かれた。

彼は讀書することも、思索してそれを書きとめることも、四人仲間と交際することも許されてゐた。彼は彼の社會思想を整理し、行動のプログラムを完成することに取りかゝつた。彼は熱心に讀書し思索した。牢獄から牢獄へ移され、つひにアフリカへ送られた。彼はなほ研究をつゞけ、彼の社會思想に開展せしめ、そして彼の社會革命のプログラムと、あの有名なプロレタリア獨裁とを案出した。一八五九年に牢獄から釋放されて、アフリカからフランスへ歸つた。ブランキは再び秘密結社を組織することに着手した。一八六一年に彼は再び逮捕されて、四年の禁錮を宣告された。一八六四年その期間の終りに、再び逮捕されることを氣遣つて、彼はベルギーへ逃れた。

一八六四年から一八七〇年迄、彼はブルツセルに住んでゐて、時々パリを訪づれた。この時代は彼の最も活動した、また勢力のあつた時代であつた。彼は獄中で考へた方法を活用したり、理論をひろめたりすることに努めた。その方法といふのは、秘密な共和軍を組織し、パリの勞働階級に普及し、以て帝政を崩壞せしめる準備をするにあつた。ブランキのこの軍隊はだん／＼増大して行き、帝政の末期の頃には、二三千の訓練された武裝人が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

集められるほどになつた。この軍隊に入れるには十分注意を拂つたのであつて、彼に政治的に追從する者を皆入れるのではなかつた。勇敢にして信賴し得られ單純な心をもつた人々が選ばれた。そしてブランキ黨は主に學生と勞働者より成り立ち、學生は勞働者の半分ほどであつた。

一八七〇年に普佛戰爭が起つた。その年の八月、九月、十月等に於てブランキ黨は反亂を起したが、政府を倒すことは出來なかつた。一八七一年の一月、チエールの新政府は獨逸に降服した。ブランキは失望して、パリを去つて南へ行つた。一八七一年の三月十七日に、十月の事件にブランキがあづかつたかどで、軍法會議は彼に死刑を宣して居つたので、彼は寢床の中で捕へられた。

三月二十六日にパリ・コンミユーンが選出された。ブランキが其處に居つたのであつたなら、無能なお喋り屋なんか追ひ出してしまつて、コンミユーンを統一し、チエールを打ち破つてベルサイユを陷れてしまつたかもしれない。コンミユーンは二ケ月の生命を保つただけで、ベルサイユ軍の爲めに絶滅されてしまつた。ブランキは一八七九年に自由の身となつた。彼はパリに住んで、演說をしたり、盛んに働いたりして居つた。一八八〇年の十二月の後半には四つの會合で演說をし、二十七日はその最後の晩であつたが、演說が終つて夜の二時頃家へ歸つて會合の模樣を話し初めて、急に立ち上つて何か分らぬことを言つたと思ふと床の上に仆れてしまつた。彼はそのまゝ意識を恢復するに至らなくして、新年の日に死んだのであつた。

「プロレタリアの獨裁」の觀念は、ロシアのボルシエヴイキ革命よりして、重大な意義をもたらすことになつた。多くの論議がその爲めに釀し出された。アナキストはその名に恐れをなして背を向けてしまつた。ボルシエヴイキはマルキシズムを奉じてゐるのであるから、この「プロレタリア獨裁」の觀念も、マルクスより得來つたものであることは言ふ迄もない。然しマルクスのみがこの觀念を社會主義のうちへ導き入れたのではなかつた。マルクス自身は「プロレタリア獨裁」の觀念を十分はつきりさせてはゐなかつたやうである。寧ろブランキの方がこの觀念をはつきり描いてゐたのであつた。

ポストゲートはいふ。「今日吾々が、プロレタリアの獨

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

裁と呼ぶところのものは、ブランキが（マルクスでなく）最初に考へ出したものであり、公然と主張したのであつた。」と。（過去から、六〇頁）また、「マルクスの大事業は階級戰爭の解剖であつた。獨裁の主張はブランキのものであつた。」と。（過去から、六一頁のノート）

然しボルシエヴィズムに於けるプロレタリア獨裁の觀念は、ブランキズムから受けついだものではない。ボルシエヴィズムとブランキズムとの間には直接の關係はないのである。たゞブランキが既に早く、マルクスから獨立して、プロレタリア獨裁の觀念をはつきりと描いてゐたといふ事實に、吾々は興味を覺ゆるのである。

ポストゲートはまた他の著書で、ブランキについて言つてゐる。「ブランキズムとボルシエヴィズム」との關係は、歴史的誤謬である。ブランキズムはブランキであつた。ブランキは理論の創造者ではなくして、革命の指導者であつた。彼は謀叛者であり、叛亂者であつた。彼はブルジョアに危害を加へる方法を案出することにその生涯を費した。彼はブルジョアを憎んだ。然し彼は自らについて理論をつくり出しはしなかつた。勿論、彼は共產主義者であつた。然し彼の政策は、政策として理論を排斥するところのものであつた。彼の追從者に與へるブランキの最初にして最後の誡律は、ユトピアを決して描くなといふことであつた。」（ボルシエヴイキ理論。一〇二頁）

とブランキのプロレタリアの獨裁の主張は、理論としてそれを組み立てたものでなく、實際の革命運動の體驗から得來つた政策上のものに外ならなかつた。

ブランキは革命をなし遂げるものは、大衆よりも、自覺ある勇敢なプロレタリアの精英といふべき少數の團隊であると見た。この點はボルシエヴイキが、プロレタリアの獨裁にはプロレタリアの大多數を必要とするといふ見方とは多少異にしてゐる。寧ろドイツのスパルタカス團の主張と一致するものである。

ポストゲートはこの點について、次のやうに言つてゐる。「この團體（ドイツの共產勞働黨）は、勞働階級の表現としての現存の機關を無視し、大衆的な政黨に對して、精選された小政黨に重きをおいて强固な戰線を向けることを要求した。彼等は、要するに、ブランキストである。彼等はこの見解を、カール・リープクネヒトやロザ・ルクセンブルクの元のスパルタカス團から受けついだものである。スパルタカス團は確かにブランキの仕方によつて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

組織されたのであつた。その黨員のうちにはそれを認知してゐて、ブランキに負ふことを公言してゐる――ブランキズムはその名の如く獨逸に實際に復活したのであつた。」と。（過去から、七八頁）

車中漫語

（赤列車の隅で）

田所照明

お互に目標は決つてる。だからその目標に進むためにのみ、凡てのことを語るわけだ。いゝことを賞めなくつても當然と思へばいゝ。惡いことだけ云ひ合へばいゝわけだ。

赤列車に乘り合はした僚友諸君！　徒然のまゝに惡口をいふ。一つ聞いて貰ひたい。

僕は元來、小說、芝居、活動、繪畫、といつた風の文藝的、乃至は文化的なものは大嫌ひで、殊にロシアの小說は嫌ひだ。アレキサンド・ウィスキーだとか。コロビタイ・ボボスキーだとか、長たらしい名で大抵うんざりする。そしてその廻りくどい、描寫（これを一般では甘いといふのだらうが）と殊にその中の變に上走つた人道味が大嫌ひだ。

これといふのも僕が木石的、非文化的、濕のない、結論的、單純な性格の男だからも知れないが、どうもアナキストのよくいふ――さうした文化的氣分が氣に入らないのだ。

そんな關係から僕はプロレタリア文藝だとか、プロレタリア文化だとか、プロレタリア小說だとかいふものは、さつぱりブルジョアのそれと大して區別が解らない。だから僕はこゝに質問する。

プロレタリア文藝とは何か。

それはブルジョアの令息と令孃の『神聖なる戀愛』を描くものではなくて、男工と女工の裏街のイロ事を描くものであるか。亦それは、貴婦人と役者の待合の淫行を描くものでなくて、下男と下女の物置きの抱合ひを描くものであるか。それは亦ワイフの『姦通』を見て、『焰は燃える』（ヤキモチの焰？）と書くものであるか。それは亦市街自動車を見て、『九ケ月の姙婦』と唄ふものであるか。それは亦血――血――血――血、涙――涙――涙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

――涙と同じ活字を用ゐるものであるか。それは亦爆彈繪をかくものであるか。

それは亦新聞の文藝欄で、解り切つたことを代り番に書いて、倉田や久米や菊池と、烏の雌雄を爭ふ文字であるか。それとも亦それは諸君のいふブルジョア作家の所謂『原稿の賣れない』文字であるか。

僕は何れも知らない。若し此の無智の徒に同情下さる方があつたら、御教示を願ひたい。

まだ惡口を云ふ。僕は知識階級出身だ。しかし僕は勞働者で知識階級を排斥する程の意氣を持ち合はさない奴は大嫌ひだ。所で僕は何も知識階級排斥贊成論者ではないが。頭から知識階級崇拜論者が大嫌ひだといふのだ。知識階級のブルジョア的、乃至は小ブルジョア的生活樣式の生む精神、態度は眞に革命運動をなさんとするものにとつて、不快に異ひない。處で頭から知識階級崇敬の勞働者は亦文藝愛好家に多い。そんな奴に限つて唄ばかり唄つて、眞の革命的仕事をしない、僕はこゝでプロレタリア文藝も、革命にとつてブルジョア文藝の低い程度のアヘンであるやうな氣が一寸する。

地方のプロレタリア文學青年などと話してゐると、バカに技巧のある話具合で『ルージン』だとか『セリオフ』だとか『カルモチン』だとかばかり話して、殺すの活すが、さて御本人はさつぱり戰鬪準備がない。こんなときこそ、今日一寸進むことは、必ずしも明日二寸進む所以でないとつく〴〵見はなされる。プロレタリア文藝は、上すべつた革命氣分は作るだらうが、その氣分が中々それから進む邪魔をする。諸君はこれに氣がついてゐるだらふ。單に革命氣分――プロレタリア文藝を讃美し、支持する連中は今の會社でも銀行でも、新聞社（殊に文藝欄係）にもどこにでも澤山ゐる。しかしその連中は戰の巷に出ようとはしない！

變なのは諸君の同志であるべき、實際やつて勞働者中には、さつぱりそんな文化的の奴のゐないことだ。中にも十人の中九人位は少しばかり反感を持つてるだらう。

諸君は革命の讃美者と愛好家とを作る。しかし僕等はジミに不斷にコツ〳〵〳〵やる革命家を作つてほしいのだ。諸君の作つた革命愛好家に相談したとき、口の上では知らず、實際に於いてその人が革命家たることを拒絶した場合に、少しくフンガイするのは、至らない僕等として或は當然でなからうか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

諸君は食ふためにいろんな革命的のものは書く。それは商品性を加味せねばならないだらう。しかし諸君はそれを以つて、革命家の能事終れりとして載いては困るやうな氣がする。お互が革命が本業で、生活手段は副業だ筈だ。

[illegible]
[illegible]だ——とロシアの誰れかは云つたが、上すべつた、そしてヒステリックな煽情的な文學乃至は文士なるものは、究極する處革命そのものではなくて、革命『的』なものかもしれぬ、恐らくさうだらうとは思ふが、しかし、人が少いのだから、革命家も間違つて作つてくれ玉へ。それこそ眞の革命作家だ。

由來車中漫語といふものはヨタが多い。あんまり青スジ立てゝ憤慨するなよ。大して恐ろしくもないし、亦そんなことは革命ではないから。革命はジミな仕事だ。コツコツコツコツやらうではないか。

學生聯盟主催

社會問題講習會

於東京帝大講堂

◇申込は前日迄受付けます。但滿員の節はお斷りしますから至急御申込下さい

社會主義經濟學……………佐野　學
社會革命と農村問題……猪俣津南雄
階級と民族……………………大山　郁雄
法律の社會的意義…………末弘嚴太郎
勞農ロシアの青年運動…鈴木茂三郎
階級文學に就いて…………平林初之輔
世界勞働運動の現勢……野坂　鐵

四月八日ヨリ
同十四日マデ
一週間
每夜午後六時ヨリ
十時マデ四時間

◇學生諸君、職業青年諸名、特に地方の青年諸君を歡迎します。宿所の便宜も取計らひます。

申込所　東京牛込區早稻田鶴卷町二〇三井橋方小笠原宛

解散された『國際婦人デー』

三月八日！

全世界の無産階級婦人が、ブルジョア階級に向つて、その闘爭意志を發表し示威運動を行ふ日だ。さうして、一九二三年の三月八日は、日本の無産階級婦人が、『國際婦人デー』の標語の下に、ブルジョア階級に向つて團結的威力の第一聲を放つた日だ。

この日の爲めに、我國無産婦人有志から交涉を受けた『種蒔き社』では、直ちにその準備に着手して、神田青年會館で『國際婦人デー講演會』を開催することに決して、無産者同盟の有志と協同して、その數日前から東京市內全部に、一萬枚の宣傳ビラの撒布と七百枚の宣傳ポスターの貼布に着手し、尙山川菊榮夫人は三月七、八、九の三日に涉つて『朝日』『讀賣』の兩新聞紙上に『國際婦人デーの意義』に就て詳細を發表した。それと同時に內部では矢部はつ君、堺眞柄君、高津たよ君が委員となり、種蒔き社の小牧近江君、青野季吉君がこれを助けて、その準備に忙殺された。

かうした委員達や其他有志の献身的努力は、意外な宣傳力となつて、この『國際婦人デー』運動は、一般社會にある大きな波紋を捲き起こした結果、警視廳當局では、この運動に對して恐怖を感じ、三月六日頃からその壓迫は急に激烈となり、遂に當日に至つて、小牧近江君が交涉の爲め所轄錦町署に出頭するや、同署では『無料入場』を條件としてならば、開催を許可しようと宣言して、その露骨な壓迫振りを示して來た。

時正に午後三時半！

この爲めに小牧、青野の兩君は、急に金策に奔走するといふ始末で、苦心慘澹の末に兎も角も、豫定の七時に開會し得る運びとなつた。

かく委員達が東奔西走してゐる裡に、六時頃から青年會館を目懸けて集つて來る聽衆は踵を接して相續き、入口で種蒔き社の『無産婦人へ』とインタナショナル社の『無産婦人の解放』とを兩腕に抱へて、入場者に手渡してゐる數名の特志婦人達は、その應接に暇もない有樣だ。

◎

七時開會。

青年會館の大講堂の階下も、立錐の餘地もない盛況

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、入場者約三千名、そのうち婦人聽講者が全數の三分の一を占めてゐた事實は、今後の我國無產婦人運動に對して意を强うするに足りる。

やがて矢部はつ君が先陣を承つて演壇に立つと、四方から起る拍手の聲援は、嵐のやうな動搖きを場內に捲き起し、それも暫らくで『國際婦人デーの意義』に就てと、同君が滔々懸河の辯を振ひ出すと、滿場の聽衆はそれに魅せられて、流石に彌次を飛ばす隙もく、水を打つたやうに靜肅が場內を支配する。

續いて左の順序で各自演壇に立つことゝなつた。

婦人職業生活の可否　金子ひろ子
無產婦人の叫び　三宅秀子
勞働婦人の立場　港ちゑ
婦人運動の現勢　武田とし
國際婦人デーの意義　山川菊榮
國際婦人運動　西たい
婦人解放運動の進化　仲宗根貞代

そこで矢部はつ君に續いて、金子ひろ子君が立つて、虐げられた日本の無產婦人の現狀から說き起して、資本主義組織の批判に移ると、場內後方から黃色い聲を振り絞つて攪亂を企てるが、忽ち『彌次封じ』に封じられて終ふ。金子君は更らに說き進んで『吾々の隣邦、勞農ロシアに於ける無產婦人の位置が如何に幸福である……』と言ふや言はぬに、場內の右方片隅に控へてゐた赤化防止團の數名が、突如、反革命の宣傳ビラを聽衆の頭上に撒布した。

その刹那！

今か今かと待ち構へてゐた增田錦町署長は、腭を突出し得意の大見得を切つて壇上に飛び上り、「かいさアーん」と怒鳴るや否や、待つてましたと許り十名許りの正服警官が、演壇見懸けて駈け上る。忽ち壇上は官憲の手に占領されて終つて、後は例の如く警官の叱咤、聽衆の怒號……

記憶せよ！　一九二三年三月八日、『種蒔き社』主催、『國際婦人デー講演會』は、彼等の豫定通りに、僅に四十分間で解散され蹂躪されたのだ。しかしながら、新しい芽は、旣に重苦しい岩石の下から、力强く頭を擡げたのだ。見よ！　無產階級の未來には、さんらんとして太陽が光り輝いてゐる。

萬國の無產婦人、團結せよ！

ロシアの小さき同志を救へ

相ついで起れる Catastrophes――戰爭、封鎖、飢饉――は罪のない何十万の兒童を家なしに、孤兒にし、飢ゑさせ健康を破壞した。嗚呼それは何人の罪であつたか、僕たちは餘りによくそれを知つてゐる！

戰爭――歷史上最初の無產階級國家をあの資本主義諸政府の犬であるコルチヤツク、デニキン、ウランゲル、セミヨノフ etc, etc の魔手から救はんと遐強に出征した父親たちの多くは遂ひに再び還らなかつた。

封鎖――『犬』たちの失敗を知つた資本主義諸政府の次に採るべき手段はこの封鎖であつた。彼等こそ文明を破壞すべき惡魔ではなかつたか。

飢饉――それは餘りによく知られてゐる。旱魃、內亂・封鎖、わが子のため一片のパンの殼でも探し求めんと家を彷ひ出た、飢ゑきつた父親たちは遂ひに還つてこなかつた。

諸君よ、プロレタリアの子たちよ！ 何十万といふ新時代（ニューゼネレーション）の子――ロシア革命の相續者――は今や滅亡に瀕してゐるのだ。

もしもソビエツトロシアにして生存すべきものであるならば、この兒童たちも亦生存すべきものではないか。未來は兒童たちの肩にかゝつてゐる！ これら無數の兒童たちを收容し、これに家と食物と養育を與へるのは、僕たちプロレタリアの義務でなくて何であるか。

僕たちはこの仕事のために諸君の時間と金とを要求する。第一、諸君自ら一人の孤兒を收容せよ、第二、他の私人或は家族に一人の孤兒を收容する樣に說服せよ、第三、諸君の勞働組合、諸君の友愛的、社會的、慈善的團體として一團の孤兒を收容する樣に說服せよ。

諸君よ、諸君は即刻この仕事を始めねばならない。憐れな孤獨な、飢ゑたる兒童たちは今や暖き椅子と、一片のパンを諸君に嘆願してゐるではないか。諸君よ、諸君の金は奇蹟を齎らすであらう！

ロシア兒童救濟具體案

一、ロシア舊貴族の邸宅を改築して各戶に百人宛の兒童

を收容し、十戸を a children's colony と稱して病院を一つ附屬せよ。

二、兒童一人當りの設備費が約十圓、一人當り一ヶ月維持費約四圓である。

三、本社は第一期計畫として兒童五人一ヶ年維持に從ふ總費二百九十圓である。

（御寄附下さつた方には一々受領證を差上げませぬ代りに本誌上で御報告します。――責任者――）

規　定

一、兒童五人設備費並に一年維持費合計二百九十圓を以て第一回送金とします。

二、寄附金額には制限はありません。

三、送金方法は成るべく振替を利用されること。

四、設備費に幾何、維持費に幾何と分けたい方はその旨明記されること。

五、毎月一人當り維持費（四圓）を出す餘裕のない方は毎月半人分（二圓）又は四半人分（一圓）或はそれ以下でも毎月つゞいて送金下さればこの救濟運動の眞精神に合致するでせう。併し毎月一定額送金して下さる方はそれを豫約する旨を附け加へて下さること。送金は向ふ一年内を以て第一期とします。

六、この救濟運動を全國化する一方法として地方の讀者諸君が中心となつて兒童の二人でも三人でも救濟する會を作つて頂きたいこと。それと本社とは必ず連絡をつけること。

七、用件は種蒔き社ロシア兒童救濟掛宛照會して下さい。

一九二三年三月

東京市外千駄ケ谷穏田一〇一
（振替口座東京五九三八七）

種蒔き社

責任者　平林初之輔
監督者　秋田雨雀
　　　　有島武郎

寄附者芳名第二回報告（二月五日〆切）

一、一圓　中村レン子（東京）
一、五十錢　中村丈夫（同）
一、同　中村タネ子（同）
一、二圓（毎月）寄集社（同）
一、五十錢　村山三四雄（同）
一、一圓　丸山專之助（横濱）
一、三十錢　月山熊次（同）
一、一圓　早川外與之（神戸）
一、五十錢　渡邊肇（新潟）

小計　七圓三十錢
累計　三十二圓三十錢

批評欄

倫理的義務は？

長谷川如是閑氏が、その本城「我等」を始め近來諸雜誌に書かれるものは、主として「意識」と「生活」の關係について論じたものである。僕はそれら一聯の論文を、非常に面白く讀んでゐる。大體において氏の見解を僕は首肯するものである。今日のやうな社會變動期には、ずゐぶん歪んだ見方や、やぶにらみや亂視が横行して、歷史を逆立ちさせたり、非論理を無理强ひしたりして、なにもかにもごつた返しにして、獨りいゝ氣になつてゐることが流行するものだ。こんな場合に、長谷川氏が努力してゐるやうな、社會の根本理法に關する闡明は、かなり大切なものだと思ふ。

三月號の「改造」にある「知的生活の階級的構成に就て」も、それら一聯の論文中の一つであつて、これまで繰返し述べられて來たところであるが、やはり面白く讀まれた。

氏は云ふ。

「かくて知識は、現代に於てもまた階級的となつた。階級的生活は集團の多數の犧牲に於て他の一部の生活を完成せしめる構成である。……この組織の社會的生活は、發生當時の征服の生活に於て、想像的知識（神話的、宗敎的、假定的、獨斷的知識）が支配することを必要としたと同じく、今日においても想像的知識の根柢に於てのみ、肯定的に意識する事が出來る生活組織である。古代の征服事實の神話的肯定が、知覺的知識科學的知識や實驗的知識）に依つて打破られざるを得なかつたやうに、今日の社會意識の想像的知識の根柢に、着々として知覺的認識の發達によつて破られる——

「然るに、知識そのものが、今日に於ても階級的獨占の狀態にある。一方の享樂の生活が他方の生活を支配する階級的構成の下に於ては、知識は想像的のものも、知覺的のものも、共に享樂生活の目的のために構成される。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近代の知覺的生活は……その享樂的價値に於て尊重される。……「眞理のための眞理」などゝいふのがそれである。社會的生活の衰退を恢復する知識の鋭敏は、物質的墮落と呼ばれて排斥される。そして文化的頽廢の心理にふさはしいやうな、感情的興奮と協力した想像的知識が、人間的崇高を表現した意識として尊重される。」

この說明は、階級生活意識の正體をよく示してゐるもので、氏のいはゆる「文化的頽廢の心理」によつて動いてゐる人達が、最もハッキリと考へておかねばならぬところである。

たゞ僕がこゝで言つておき度いのは、「さういふ生活意識を產んだ生活の組織（現在ではブルジョジー）のために、現實の生活が行き詰り」、「社會が生活恢復の無意識的行動に向つて突進し」、「新たな生活意識が人間の智的生活に新たな進行を與へる」場合に於いて、我々の果す可き倫理的義務は何であるか？ その疑問に對する長谷川氏の正確な答へを得たいことである。今日まで長谷川氏はこの最後の最も尊い一枚の札を隱してゐるやうである。それを投げ出して貰ひ度い。（季吉）

「彼等の行く方へ」

——小川未明氏著——

あなたの作なら、どんなものでも贊成ですと常に僕はさういひたい。それだけ、あなたはいつもあなたです。僕は腕と手と痛くつて、どうにもなりません。それでも「彼等の行く方へ」を全部讀みました。それについて細しく書けないことは殘念でたまりません。人はあなたの生命は長いといふ。僕は、それとは反對に、あなたの生命はむしろはでやかでないといひたいな。過ぎるといひたい。そんなことはあなたにとつてどうでもいゝかも知れない。しかし、そんなことがこんども痛切に感ぜられたのです。今日はこれだけにして。（小牧）

床次前內相に代つて林君を難ず

（中央公論三月號）

（一）

早稻田大學教授林癸未夫先生は床次前内相の社會政策時報一月號に物された『我國の勞働問題』に付いて中央公論三月號に於て痛く難ぜられてゐる。僕は既に去年の八月頃この批評欄で癸未夫先生を紹介したことがあるから今更その必要がないと思ふが、事我が敬愛する竹さんに關するのだから默つてゐられない。一寸竹さんに代つて林君を難ずる。

（二）

林さん。隨分書きましたね。十八頁も。竹さんが廿頁書いたと云つて皮肉られてゐるが大同小異ですよ。それから貴方は竹さんの地位や、身分のことを何とかかんとか云はれましたね。けれども貴方だつて第一大學教授だし、第二中央公論に毎月堂々論文を發表されるし、第三學問の經歷があるし、第四個人的聲望(?)があるんだから一言位何とか批評してもいゝ譯ですね。貴方の云ふ通り『學理的な論議』は止しませう。

（三）

林さん。貴方によると床竹さんは勞働組合法が無用であり、而も勞働組合は弊害だと云ふんですね。そして貴方は其について色々當りちらしてゐるんですね。貴方は床竹さんの云つた『洵に日本は今日自由な天地である。如何なる勞働組合を作らうとも勝手次第である』といふ言を以つて『無謀な放言』と解してゐますね。けれどもね、林さん、現實の日本の勞働者は勞働組合法なんか欲してないんですよ。否公然と反對してゐるぢやありませんか。(ソーラ！ 竹さんが笑つてゐるぢやないか) それから貴方だつて『勞働組合にも弊害がある』と云つてゐるぢやありませんか。『勞働組合にも無謀な爭議を敢行して產業の發達を阻害するやうな場合のあることは事實である』つてね、それやね、今迄の勞働組合には弊害もありましたよ。がそれは誰かの云つた樣に草鞋を履いてァムステルダムインターナショナルの御用を勤める樣な『弊害』ですよ。

（四）

林さん。貴方は隨分見かけによらない怖ろしい事を云ふ方ですね。『勞働團結して資本家と鬪爭することは、……の如く人間の本能であり、社會の必然である。之を除去する唯一の方法は、單に營利主義產業組織（資本主義經濟組織のことでせうね）其のものを全廢することだけである』だなんて。その上我が愛する床次前大臣を捕へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て『協調哲學』者だと惡口を云つて、床次氏は『さながらクロポトキンの相互扶助論を彷彿せしめるものがある』とか『併し氏が無政府主義者でないことはクロポトキンが政友會員でないと同樣に明白な事實である』なぞと柄にない厭味を並べてまるで貴方の嫌ひな『危險思想家』の云ふ樣な事を云つてゐる。こんな事を云つても林さん、貴方は大學教授で濟してゐられて、月給は貰へるし、警視廳の甲種注意人物にもならんし、尾行も付かんとすれば、日本の警視廳の怠慢も亦極れりですね。やつぱし、床次さんが內相にならんと吾々良民は不安ですよ。

（五）

林さん。所が、それは皆僕の早合點だつたんです。第一貴方は竹さんが『我邦に於ては產業界に所謂協調主義の旗を押し立つてゝ』と云つたことを潮笑してゐますが、貴方が勞働組合の『弊害』を說く段で何と云はれました?、『無謀な爭議を敢行して產業の發達を阻害する……』と云つたでせう。貴方と竹さんにはちつとも違ひもないぢやありませんか。それや貴方の方が學者かも知れないが、頭腦のいゝことは殘念乍ら竹さんの方が上ですよ。現に竹次郎さんが治安警察法第十七條撤廢の不可なるを論じて『ストライキといふものはほんの豫備的行動で、目的は資本階級及之に附屬する階級を打潰さなければならぬ』卽（貴方の說明になると）ストライキは社會革命思想を意味すると論じたのに對して貴方は第十七條の嚴正な文字解釋をして、この法文に揭げてあるストライキといふのは社會主義や階級闘爭には何の關係もないので只『何處までも產業上に於ける勞資の闘爭、卽ち普通の意味で謂ふ所の勞働爭議』を云ふのであつて、從つて第十七條の規定もこの種の勞働爭議を『禁壓』することが『目的の全部』であるとしてゐる。『禁壓』である以上は爭議の場合勞働者の採る凡ゆる戰術、例へば貴方の許す『間接の脅迫』や『言論文章』の法に觸れる事は言を俟たないのです。この點に於て貴方がいくら第十七條の文字解釋をしても床竹さんの矛盾を指摘することは出來ません。更に竹さんが法文に拘泥した文字解釋などは棄てゝ事實に卽してストライキは社會革命思想の發顯として嚴重に第十七條を適用せんとする所なぞは愈々以て林さんの頭腦以上であることが明白でせう。世間では『浪花節の竹公』と云つて馬鹿にするが、どうして〳〵。

（六）

林さん。要するに貴方は床次前内相を難ずる必要否資格は毫もないのです。大體貴方は竹さんと同じ前提(『産業發達第一主義』に立ち同じ結論(勞資協調主義、國利主義、民福主義)に到着してゐるのですから。尤も竹さんは貴方よりは多忙なのだから、色々氣の付かぬ事もあるでせう、で不足を補つてやることはいゝ事です。例へば、『若し我國の政治家が社會革命運動の發生を未然に防止しようと』するなら治安警察法第十七條では不足だ、もつと他の『有效適切な手段に依らなければ』と教へることなぞはね。序でにもう一つ。『併し適度を逸した勞働保護は生産費の昻騰を促し、生産費昻騰は物價の騰貴と貿易の不振を招徠し、延いて産業の萎縮と失業者の增加を結果することになるのであるから、企業家の心理が主我的であるからと云つて、彼等の主張を全部排斥することは政治の公正を期する所以でない』なぞと大變企業家に同情して、竹さんを戒しめることは將來のためにいゝことです。勿論それぢや『營利主義産業組織そのものを全廢すること』は到底出來つこありませんがね。

(七)

床次さん。生來正直な僕は多忙な貴方の不自由を察して貴方に代つて癸未夫さんに一言注意して置きました。けれど、彼は貴方に如何に失禮な皮肉なことを云つてもそれは『爲政家の公正を要望』する國士の言なのですから其の意を酌んでやつて下さい。決して彼を『危險思想家』扱ひにしてはなりませんぞ。(それは却つて『所謂危險思想の醱酵に好箇の素材を供すること』ですから)彼だつて一朝有事の際は貴方の馬前に討死する位の信義と決心はあるでせうから。どうか何時までも彼を大學教授の職と中央公論特別寄稿家の地位から離れさせないで下さい。よし稀に『勞働者の味方』となつて『彼等の利益のために辯ずる』ことがあつても其は『勞働者のためではない』ので單に『國利』のため『民福』のためなのですから御氣に留めないで下さい。

さらば、タケちやん、キミちやん、折角御大事に仲善く暮して下さい!!(日乃樹)

無産青年とデカダン文藝

――尾崎士郎、松本淳三の徒に與ふ――

自覺した無産青年の志は現實の生活に容れられない。

彼れは貧しさと周圍の無理解との故に、今の社會に於て、幸福な家庭を持つことが出來ない。何をしても面白くない。精出して働らいても、一向に働き榮えがない。誰れの爲めに働らいて居るのか、何の爲めに働らくのか一向に仕事の中心點が掴めない、餘計に働らけば働らくほど、損をする樣な結果になる、だから成るべく少く働らいた方が得である。中には、全く働らかないで濟せるものなら、濟したいと云ふ横着な考へから、全く働らくのを止めて、ノラクラして居る者もある。さうしてノラクラして居ることの面白くないのは、働らいても、働らいても面白くないのと同じである。好い氣になつて働らいて居れば、癪に觸ることばかり多いし、ノラクラして他人の食ひ潰しをして居ても、他人から好い顔はされない。そこで、少し自暴氣味になる。バーへでも行つて、酒でも飮まふと云ふことになる。財布が例に依つて空つぽだ。盜みでもすればだが、それは現代のブルジョア道徳、ブルジョア法律が許さない。無錢飮食、そいつも一寸出來かねる。すぐ押へられるだらうから。尤も大勢で隊を組んでやるなら、斯う云ふ事は幾らでも出來るであらうが、自分一人でやるのも馬鹿らしい。仕方がない。酒の飮代位は稼がうと云ふ氣になる。

實際、今の目醒めた無資産の青年に取つては、少しでも金を持つたら、カフエーへでも行つて、酒を飮んで女と巫山戯るか、友達と議論でもすることだ。さう云ふ世界は、ともかくも我等青年の自由な世界だ。そしてそれはそこでなければ、迚も現實の生活では見出せない自由な世界だ。戀、無産青年の戀、そいつも恐らく酒場のものだ。友達と一緒に酒場へでも行つて、氣焔を擧げたり、憤慨したり、嘯いたり、唄つたり、とにかく、そこで日頃の欝した情熱を發散させる。そこに、一番我等青年の眞劍な面目の躍如たるものがある。そこに、最も燻んだ人生の歡びがある。豊かな藝術的氣分がある。その氣分から醱酵した文學、藝術、蓋し、そこに現代無産青年のデカダン文藝の濫觴がある。同志松本淳三君が今度自然社から出した詩集「二足獸の歌へる」はこの種のデカダン文藝の一つであると見るべきものだ。尾崎士郎君の「逃避行」にも斯うしたデカダン氣分が多分に見える。

僕は現代の日本の青年が、斯うして酒場を飮み廻して歩く傾向を、好いとも惡いとも思はない。只、それが自然であり、當然であると思ふ。そしてその酒場氣分、酒

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

原始的な力強い、且つ未來を決定する農村から出現して來た。

地獄にあらはれたものは單純な農民と灼熱の土地と遊墮に頭の腐つた地主である。地主の心理や生活の描寫、平吉の女房の描寫なんか絕妙を極めてゐる。で、地主のあの性慾生活は讀者の反悶を唆らせるには非常に効を奏した描寫だが、一步、平吉の女房、それから村の女達の描寫になると一種の不安が付き纒ふ、と言ふのは洋文に對してゞはない、讀者に對してだ。それはあの絕妙なる描寫の技巧の力がぐん〳〵進むにつれて讀者が、その世紀末的目をもつて例の「婦人問題」を見るかも知れないといふ杞憂だ。殊に洋文は新人だから……。で此處で一寸洋文に許して貰つて脫線しよう。

無產階級運動に婦人問題などゝいふブルヂョア式解決法なんか無い。彼女達は男性と同じく社會の根本問題の解決に於て男性と同權利で有ゆるものを求むべきだ。彼女達は資本の鐵鎖と同時に男性の鎖鐵を斷つのだから。僕達にとつて女性は「貞操」なんかといふ享樂を目的とする商品のレッテルのやうなもので抽象されるべきではない。絕對に——「勞働者」が商品でなくなる時、「貞操」もそのレッテルを完全に捨てるのだ。——その點を洋文に代つて讀者に斷つておかう。いづれ洋文から透徹したものを見せらるゝだらう。

洋文から技巧のみをとりあげて抽象するのは非常な失禮だが、技巧の眞に於ては、ブルブルヂョア竝にプロレタリアの作家の全數を通じてこれ程巧い人はゐないだらう。それが定評だが。僕達の陣地に斯樣な作家を有する事は單に技巧のみ（重々の失禮）から言つても非常な强味だ。實際洋文は敵味方の作品の技巧の末端までも嚙みしめて味ふ抱含的の、視界の寬闊な、いゝ處を持つてゐる。そして魏然として立つてゐる。此處だ、いゝ處は。

未熟な他の似而非新進作家のものを見ろ。まあ顏が赤くなる。文法もロクに知らないでヘンな文章を書く……文法なんか！ 俺はプロレタリア……と言ふのか。顏を洗つて出直して來い。無產階級運動が進化し、大成すると言ふ津浪の飛沫に無論「完成した文藝」も含まれてゐる。それは決して未熟な文藝ではない。——例か？——勞農ロシアを取らう、勞働者でも農民でも嘗つては特殊階級以外からしか洩れなかつたゲーテ、シュニツラア、ヘッベル、ハウプトマン等を味ひ、語り、書き、自ら舞

臺に飛び出してゐるではないか。力强いものを生み出す、嵐の前の靜寂のやうな準備期に今彼等は居る。
未來の藝術は未知數だ。だが僕達はそれに關して非常に樂觀してゐる。——と言ふ點は、未來の藝術は、出版ブルヂョアの營利を信仰し。これと共同戰線を張り、笛を吹いて躍る性慾的、遊惰的、懷疑的、下つては破壞的反動的の作家達に依つて從つて出版ブルヂョアの利得に依つて決定されるものではない。その歷史的意義及使命を體得した實に大多數のプロレタリアが、その困難なる歷史を創造する道程に於て急激に或は徐々に、ブルヂョアから全く獨立した、獨自の文化、藝術を建設するものだからである。未來主義、表現主義類は、資本主義の斷末間の喘ぎである事が次第に明瞭になつて來る。泣いたつて、叫んだつて馱目なものは馱目だらう。——これを以て未來——プロレタリアの藝術の新型式などとはほざくもほざいたり……
ルナチャルスキーは幾世紀の間勞働者、農民、兵士が進まふとして禁じられてゐた道——暗澹たるその前途にこそ一切の未來の藝術がある。と言つてゐる。これは體驗者の言だ。然り一から十まで民衆の創造力だ……。此の方途の暗澹に對して世界の隅々から呼び聲が起る、兄弟?……それ聞えてくるではないか。兄弟!……モスコウからシカゴから、フランスからドイツから、全世界の隅々から。僕達はこの聲に應じなければならない。有ゆる國家主義的觀念を超越して世界主義的精神に燃えなければならない。僕達の祖國はインターナショナルだから、インターナショナルの精神のみ未來の世界、從つて藝術を持つのだから。
——種蒔く人は何のために生れたか?
——表紙を見たまへ、インターナショナルのなにだ、世界主義文藝のなにだ!
インターナショナルは空中に浮んでゐるものではない。それは地に附着してゐる、勞働に蓄はへられてゐる、資本と戰つてゐる……。
洋文が薄暗い日本海の浪風に掩はれてゐる奧深い土地から身を起してやつて來る。洋文の前途は暗憺だと同時に多端だ。——平吉に言はしめる「俺達百姓を救ふものはたゞ××しかない」と。この透徹した精神に付き纒ふものは何だ。それを洋文は力强くゑぐり出す。「いろ〳〵

な障害や壓迫や苦鬪が彼の目に見えた。」僕は堪らなくいい心持になつて來た。洋文と膝を交へてゐる樣な、僕達が何日も話す談話を讀者に洩したい樣な——

いろ〳〵な「障害」——とは私有財產制孤立生產を、集產制協同生產に變ずる、從つてそれに絡んでゐる懷疑、因循、迷妄に對する障害である。社會主義を困難ならしむるものである。此處に、此處の戰にインターナショナルの本質がある。退くな。徐々に腰を据ゑて戰ふのだ。——「壓迫」——とは卽ち「地獄」の現在は未だ初期の小作運動であるが次第に組織的な計畫的な團體行動になつて來る。そこに小作組合が出來、從つて經濟的行動から政治的行動になり階級鬪爭的××行動になる。インターナショナルの行動になる。然らば——とその壓迫を言ふのである。——「苦鬪」——とはプロレタリア革命は忍苦の冷い道である。それは胸の血を湧かす樣な華かさがない。飛躍もない。——有ゆる反動を壓伏し改革してより高度の社會をつくらうとする苦鬪の長い苦しい道だ……

その革命的精神、その世界主義的精神を言ひ終つた洋文は更に徹底した非個人的精神を吐露してゐる。「而し自分達の仕事は、貧しい兄弟に捧げる、人間として最も偉大な貢獻であると考へる處に、大きな歡びがあつた。自分達は自由と平等を獲得するために立つたのだ。正義のため、眞理のため、「個人の生命を犧牲にする」ことは「人間の光榮でなければならない」さうである。全くである。僕は總べての讀者と共に深い敬意をさゝげる。「個人の生命を犧牲にする」覺悟で進んでゐる僕達には感銘が深い。原始共產制度が破壞されてから、幾千年、僕達の祖先はどんなに悲慘な血を社會の爲に流して來たか。その血の故に現代が持ち來されなかつたか。益々悲慘は益さなかつたか。今や僕達はこの悲慘の爲めに立つた。無名の、實に大多數の僕達の祖先のために立つた。僕達の彼等に對する義務は、流されたその血の一滴をも無駄にしない、といふ點である。僕達が倒れたら、ヤング・ゼネレーションがこの義務を遂行し、より高度の社會を建設して吳れるのだ。洋文は言つてゐる、そして僕達の精神もそれで盡きる。

「そのために失つた我々の生命は幾世紀を通じて永遠に生きるのだ」！（不知火）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

要求條件一つ

（一）

「地獄」の作者は、この一篇を新しい形式の——つまり新興文藝の一樣型として示したものだ。と云ふ樣な噂話も聞いた。もし、さうだとすると、作者はいま一度、この「地獄」に就て考へなほして見る必要がありはしなかつたかと、僕は思つてゐる。

たしかに、これは形式として、舊來の型を破つて行かうとする、作者の意氣が窺はれる。しかし、それと同時に、この作には讀者の心を捉へて放さないと云ふやうな、強い把握力に缺けてゐる。芝居の筋書を見せられてゐるやうに、筋の興味で引擦られて最後まで讀んでは行くが、讀み終つてから、餘りに飽氣ない談で感銘が殘らない。作中の酒田大納言にしても、平吉にしても、その他の誰にしても、人間としての血と肉とが、餘りに稀薄である。

やはりこれは芝居にすべきであつた。

（二）

露骨な概念の説明、種々な主義の雜然とした同居、作者の心意の燃燒の不足——これらの缺陷から來る、不純性は「地獄」一篇をして、未だ習作の域を脱しないものたらしめてゐる。黎明期の前の混沌を思はせる。よし、この「地獄」が失敗の作であるとしても、この失敗は、やがて新藝術の礎石となるべき——少くもこの作者にとつては新しい藝術の第一歩となるであらうと思はれる。第二、第三、第四、第五……と積み重ねて行つて、やがては黎明が、白日が來るであらう。

人間としての苦しみを、この作者が吾等の前に語つてくれる時に、新しい焰のやうな「地獄」が、吾等の前に展開されるであらう。この作者にとつて、新しい形式技巧に憂身をやつすことは、寧ろ恐ろしい陷穽ではあるまいか。よく泳ぐ者は溺れ、才人は才のために誤るの例は、縱に古今を通じ、横に東西を貫ぬいて悉く然り……（亮）

「地獄」評

百言一行に若かずと云ふ氣持で、僕は文筆勞働者組合の事務に鞅掌したが、實に不出來でとう〳〵失敗に終つたのは殘念だ。が斯うなつて來ると矢張り文藝は僕など

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

には必要缺くべからざるものとなつて來る。是からは少し氣を落ちつけて、書き出さうと思ふ。百言一行に若かずと云ふ事は、文藝上に於ても眞理で、百の言論よりも一つの確かな創作が出來ることを僕は祈つて居る。その矢先に見せつけられたのが、今度金子君が「解放」三月號で發表した「地獄」であつた。しかもそれが、僕が取扱つて見ようと思つて居る題材と同じ様なものであつたので、僕には隨分アッピールする所のものが多かつた。米騷動がそれだ。

併し、この「地獄」の作意からすると、米騷動の前の水騷動と云つた方が適當である。東京に居ても多摩川の水が涸れたら、すぐ水騷動が起るだらうが、米を造る農夫の生活に取つては旱魃ほどの脅威はない。隨つてこの「地獄」の題材の中心となるものは、この農民生活の上に加へられた旱魃の脅威であつて、都會のプロレタリヤが平素持つて居る様な脅威即資本主義の脅威ではない。そして農民の多くは平生斯うした自然の脅威との戰ひに疲れ、資本主義道德の不合理と戰ふべく、餘りに因襲的であり、餘りに妥協的であり、餘りに非文化的である。隨つて彼等の戰ひは、文化の戰ひの形式を取らず、「自然の戰ひ」の形式となつて現れる。極度の脅威、極度の壓迫に對する極度の忍從の爆發である。その爆發、その蜂起たるや全く沒打算的で破壞的で無茶苦茶な暴動の形式を取る。

金子君の取扱つた「地獄」に現れて來る農民は、餘程社會主義の宣傳の行き亘つた文化のある農民になつて居る。地主に對する解放運動にしても、社會主義的な運動方法を取つて居る。若し農民があれほどにカルチユベートされて居れば勿論あれで自然だが、何處か農民らしくない金子君が跳び出して行つて、社會主義の宣傳をやつて居る様に思はれる處がある。農民の運動は矢張り知識階級の運動になつてはいけないと思ふ。農民の運動は農民自身の運動にならなければダメだと思ふ。そして農村に於ける不合理の破壞は農民の本能的要求の力に依るものであつて、決して一二の所謂自覺した知識階級の指導の力に依るものではないと思ふ。知識階級は今の場合農民であり得ないし、今の農村は自覺した知識階級をあれ程は容れ得まいと思ふ。

群集を取扱つたのは大衆文藝の新様式として最も歡迎する所であるが、その群集がもつと本能的に動いて、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れがモッブの心理で自ら白熱して、虛僞と不合理とを破壞する樣に進めたら、藝術的効果は一層大きなものとなつたであらう。

書き出しや筋の運び方のうまいのには感心した。ひとりでに引き摺られながら、最後まで一氣に讀み下した。シーンの描寫が中々シッカリしたタッチで、ドラマティカルにクッキリと盛り上る樣に書けて居る、隨分苦心して書いたものである事が、讀者の胸にヒシ〳〵と迫る。近頃之れ位面白く讀み切つた小說は尠い。金子君は恐らく何を取り扱つても、人に面白く讀ませる十分な腕を持つて居る。

只、最後にあの憎むべき傲慢で淫蕩な地主を農民のモッブが袋叩きにすること、若くはあの湯氣の賁立つて居る地獄の中へ叩き込んでしまふことを差控へたのは、さうしなければならなかつたのは、如何にも遺憾千萬である。さうした復讐の快感は、プロレタリヤが無意識に求めて居る正義の力の顯示であるからである。この民衆の最も大きな悦びを表現する所に、社會主義藝術の使命があると思ふ。(光造)

內部的整理の必要

無產階級文學運動のみならず、全無產階級それ自身の運動も大分深刻化して來たやうである。それと同時に、反動運動も盛になつて來たやうである。

僕達は、こんな反動運動が、本統のものではなく、又價値のないものであることは知つてゐる。が然し、反動運動はもつと〳〵來るべきものである。甘く見くびつては不可い。たゞそれ以上の何物でもないことは勿論のことではあるが。

人間社の全盛を最も早く衰へさしたものは、彼等の遊戲氣分と、彼等を取り卷くいゝ加減な與太物であつた。菊池氏の「文藝春秋」を亡ぼすものも亦、それをとり卷く雜輩の、鼻持ちならぬ與太物共であらう。僕達はどんな運動であれ、與太を信用することは出來ない。

無產階級運動は、必然起る可くして起つたものである。僕達の運動が、現代社會に於ける一つの戰線として最も意義ある、又最も必要な運動であることは、今更云々する必要はないのである。

然るに、無產者運動の下にかくれ、現代社會の最も意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

義ある運動の下にかくれ、正義顔したニセプロ、おつちよこちよい、或ひは利己的社會主義、巧利的社會主義、ひいては極端な冒瀆的運動者の多いことである。

僕達の中にも、多くの不純な心持が潛在してゐる。僕達はそれで苦しんでゐる。純粹ならんと努力してゐる。そこが僕達人間の淺間しさであり、又いゝところでもあると思つてゐる。

僕達の運動は、より良くなる爲めの運動である。が、自分一人の爲めの運動ではない。僕達多くの兄弟の爲めの運動である。然るに、僕達は僕達の中に多 のニセプロ、利己的主義者、巧利的主義者、冒瀆的運動家を見出す。そんな場合僕達は胸のさける思ひをするのである。而も、僕はそんな事實に幾度か打つつかつたことであらう。指折り數へる程、その事實は多い。よりよき氣持の人々が、ニヒリストになり勝のことも一面の道理である。彼等には、現世の何物も汚なく見ゆるのも道理である。されぱと言つて、何うしてこの悪世から逃げられるものぞ。悪世であるが故に鬪ふのだ。

僕達の敵として注意せねばならぬのは、資本家や、官僚や、反動家や、文藝至上主義者や、軍人ばかりではない。內部に巢喰ふニセプロ、巧利的主義者、——其他の、僕達の運動を不純にする最も卑しむべき者共である。彼等の爲めに、僕達の運動は誤解を受けるのみならず、運動を不純にし、反動的氣勢を高めしめる。それは恰も、人間社の末派、文藝春秋の末派、其他總ゆる運動の末派共が、その運動の生命をより早く、或ひは亡ぶべきものでないものまでも亡ぼしたのである。僕達は此處に注意を怠つてはならない。安心しては不可い。

僕が見、聞き、知つた事實は數多い。が、今その事實は言はぬ。たゞかゝる事實が如何に多いか。如何に注意すべきか。それを簡單に言つて置くのである。(弘二)

金子の「地獄」

金子の「地獄」に就いて、多く言ひ度いのであるが、僕自身「解放」の編輯者であり「地獄」が「解放」に載つた關係上餘り多くは言ひ度くない。一言して置く。

金子の小說、戯曲は僕も殆んど全部讀んでゐるが「地獄」は最も好きなものゝ一つだ。力作であるばかりでなく。プロレタリア作家のものは不味いなどゝ言つた人々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にも見せてやり度い位ゐのものだ。最近の文壇中でも、い〻ものであると思ふ。

一つの缺點は、作者が餘りに興奮して出っ張つてゐることである。それは作そのもの〻强さを消す。金子のセンチメンタルがさせた、珠に瑾だ。（弘二）

第三者として

——讀賣紙掲載菊池寛の一文——

讀賣新聞の文藝欄に掲載された、前田河廣一郎氏に宛た菊池寛の一文のみに就て自分はものを言ふ。

あの『妥協』の問題は、おれたちの仲間では一笑にも償ひしないだらうが、地方の正直な青年達は、あの菊池寛の言葉そのま〻をうけ入れて、折角階級意識に眼覺めて來たものも、ぐらつき出して、それこそ資本制度に妥協しようといふ危險がないでもないから、第三者のおれが、菊池寛の妥協に就て少しく言ふことがある。

寛が言ふところの、現代の生活が妥協だといふことは、當面した生活の事實を說明した——といふだけに過ぎない。それがうごかすことの出來ない事實——として持出す時、自己を辯解するに誠に都合が好い。しかし、結極は辯解より一歩も出てゐないではないか。

生活の事實を客觀的に說明したゞけで、唯一の勝利の武器として、鼻うごめかし、冷笑さへ浮べて、『ざまア見ろ！』と見得を切つた。

それこそ、溺る〻者の藁をも摑む敗け惜みでなくて何んであらう。

今はじめて、『生活は妥協だ』など〻、環境のなかの自己に氣がついたらしい、寛のすがたこそはまつたく悲慘だ。

前田河氏にむかつて、『良心に訊いて見給へ』といふ以上、寛自身が良心を持つてゐることは明らかだ。それなら、『生活の要諦は妥協だ』と廣言して、寛自身の良心は平らかであるか。何等の苦惱をも感じないか。

寛の良心が平らかであるとしたなら、寛が妥協の廣言こそ、自己の辯解に過ぎないことを雄辯に語るものである。もしまた、寛の良心が苦惱を呻くとすれば、寛は先づ事實の說明から今一歩踏み出して、妥協を要諦とする生活に屈從の平安をむさぼるのだといふことを聲明する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か、左なくば、妥協から脱却せんとして焦慮し、解放を欲してゐると聲明すべきである。

寛が前田河氏の良心に呼びかける以上、自分の良心の下に立つ態度を鮮明しないといふのはあきらかに矛盾である。

しかし、恐らく、寛は立派な良心を持合してゐるからこそ前田河氏にあれだけのことを言つたのだらう。また、言へたのだらう。それはつまり、寛自身は、『資本家の經營する新聞雜誌に原稿を賣り付けて、喰はなければならない悲しき折合……』と言つてゐるやうに『妥協の要諦』を悲しき折合だと痛切に思つてゐる點に於て證明される。かう書いて來ると、寛の態度が必然にあきらかになつて來たわけだ。さ、それならば、寛は悲しき折合から、自分をどうするつもりだ。自分の良心の前に、自分をどうするつもりだ。現代の生活の要諦は妥協だからと、そらぐ\しく逃げを打ちつもりか。事實の說明から生れて來た妥協の言葉は、單純な人達への眼つぶしには誠に都合がいゝ。

おれたちから見れば、今頃になつてはじめて環境の否定か肯定かに迷つてゐるらしく見える。遲蒔な話である。

自己が環境のなかに生活するものである以上、環境を離れて自己の生活は絕對に保たれないといふことは、生れ落ちる時から既にわかり切つたことである。であるから、おれたちは、解放されようとし、脫却しようとし、革命しようとして、鬪爭に向ふのである。おれたちが資本主義制度の下に生きてゐるおれたちでなかつたら、どこに爭鬪の必要があらうぞ!。

寛よ! おれたちの戰鬪といふのは、最も內部的な、戰鬪意識そのものを言ふのである。

此の血の出るやうな戰鬪意識には寸毛も妥協がない。それだから、苦惱のなかに生きるのだ。破壞へ行かうとするのだ。戰鬪意識が行爲に移つて手段を選んだ場合、つまりある策戰から生み出された手段の行爲化を妥協とは言へない。資本家の戰線のなかで、資本家と戰はふとするその戰鬪の手段を、妥協とは斷じて言へない。

若しまた菊池寛が、妥協とは良心の問題だと言ふのなら、先づ菊池寛自身が良心の前に恥なく立つためには、自己を殺すのが當然である。それが徹底的な行き方である。

しかし、また、寛自身が妥協と認める現代の生活に、

あくまでも生存を續けねばならないと言ふなら、そして妥協であることを是認し肯定して生きようといふのなら、他人を責めるより先づ自らを責めるか、または自分もブルジョアの一人であることを堂々と宣言すべきである。平氣で宣言が出來る筈である。

更にまた、自殺も欲せず、寛自身が言ふところの妥協の要諦に、『よく良心に訊いて見給へ』

と他人を叱りつけることが出來るほど自分の良心が冴えてゐるものであるなら、寛が言ふその妥協の生活の破壞へ、勇敢に自分を進めるのが當然である。馬首を陣頭に進めて、行動の藝術へ、また實行へと、おれたちの共同戰線へ走せ參ずるのが當然である。自ら兜を脱いで來たるものを、誰かこばむものがあらうぞ。菊池寛以つて如何となす？　（賢三）

「火事の夜まで」の作者へ

ブルジョア藝術家達が今更プロレタリア藝術の――プロレタリア階級の存在――事實を否定したからつて、今日僕達はなにもそれを意にかけるには及ばない。また資本主義制度の存續する以上ブルジョア藝術家達の作品も餘命をつないでゐるのは確定の事實だから、殊更ブルジョア作品剿滅を怒號する必要もない。それよりか、僕達當面の問題として、同志の教練を行ふことが最も大切なことではなからふか。それはプロレタリアの藝術家と稱するのはいゝが、あまりに藝術の幻影に執着して、プロレタリア藝術運動は社會主義運動の一局面であることを忘却してゐるよふな、最も不心得な、最も「革命」にとつて厄介な同志もないではないから。

ところで、この意味に於て僕は、本誌三月號所載今野賢三氏作「火事の夜まで」を解剖してみようと思ふ。

この作品を一氣にして貪るやうに讀んだ僕の胸には熱風が渦巻いた。これは最初に作者に感謝せずにはゐられない。と同時に、口癖に現實を直視するといふブルジョア藝術家、お前達はどんなに現實を「ありのまゝ」に解剖するといつて、資本主義制度の網に對しては盲目にならうと努力したかを、この作品をぜひ一度は讀んで過去現在の生活態度を一刻も早く恥ぢるがいゝ。

作者は、暴虐な冬に襲はれてゐる東北の小さな町を背景として、新聞配達夫と淫賣婦即ち無産者同志の間に起

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた變愛、結婚式形の事件を題材に取扱つてゐるが、なにを作者はいはんとしたものであらうか。僕は思ふ、資本主義制度下の權力によつて粉徽塵に打ち碎かれた無產者の結婚形式、そしてそこに展開した當面の現實によつて制度存在の害惡と權力に對して感情的に叛逆せずにはゐられない無產者――男女の心理を摑まふとしたに相違ない。

次に作者は僕達に作品を通じてかう囁く。僕達にとつて現在資本主義制度の下に、惡い意味の無政府無秩序極まるこの社會に於いて、純眞な愛の生活を築かうとしたつて、それは壞はれた硝子壜の碎片をかき集めて全きものにしようとすると同樣に架空な努力である、言ひかへれば、婦人の貞操が私有財產の一屬性である間は、戀愛結婚は空なる幻影であると。

僕は、警官にふみ込まれた時の新聞配達夫の心持、ちよ子が賣淫によつて得た金で買ひ求めた炭を惜む氣持、それから無法な拘留に處せられて叛逆心を起した女が無智な復讎方法を考へる……、辱められたふたりの疲れ切つた肉魂、明瞭りと思ひ浮べることが出來る。夫れほど作者の技巧にも敬服せずにはゐられない。たゞ最後の新聞配達夫の火事に對する氣持は唐突の樣に思へる。しかしもういふことは止めよう、作者は決して現在のまゝの境地で滿足してゐる人でない筈だから、もつと非個人主義的精神の、非愛國的精神の、革命的精神の作品を生んで戰鬪文學、宣傳文學としてのプロレタリア藝術の任務を果してくれるに相違ないから。

しかしお互ひにこの事はいつだつて忘れまいね。それは新興プロレタリアが僕達藝術家へいつもかうよびかけてゐる言葉だ。君達は現實大衆の進行卽ち歷史の流れをよく摑んだ方がいゝぜ、あまりに忘れ勝ちであるからと僕達知識階級を叱咤する聲、その行動を。盲評多謝。（鷹谷信行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界欄

プロレットカルト問題と其實際方面

ロシアの學校組織

教育　は、初等、中等、高等の三階級に分たれ、原則として、このいづれも、無料で人民に習得せしめることになつてゐるが、未だそれをそのまゝ實行し得るだけの條件が備はつてゐないので、今のところ、初等教育だけを無料とし、中等教育は部分的に有料としてゐる。然し、最近に於けるナルコンプロス（教育人民委員）の決議によれば、本年度より、中等教育も全然無料となる筈である。財政經濟上のあらゆる困難にも拘らず、當局は、着々としてその具體政策を實行しつつある。

高等教育　は三つの部分に分かたれてゐる。

一、各大學には、勞働者分科大學といふのがあつて、其處で、各組合から選ばれた委員達が、大學課程の根本的な豫備教育を受ける。

二、勞働分科を卒業したものは、各々の選擇科目に從つて、一般的大學教育を受ける。

三、以上二つの課程を終へたものは、愈々正科の大學生として各々專門の學術を研究されつゝあるのみならず、更にこの最上級に於いて、他の種々な實際的方面の政策、技術をも習得させられる。

以上三つの課程を受けるものは、全然無料で、宿所と、食料と、學用品とを供給される。

ブルジョアの子弟　と雖も、自由に大學へ這入ることが出來る。併しその數は昨年八月の總計によれば全大學その十パーセント乃至十五パーセントに過ぎない。そして彼等は、他の學生達とは違つて、宿所、食料、學用品總てに對して、正當な支拂ひをしなければならない。

大學　は革命前までは全國に九つあつた。現在では、ナルコンプロスの努力によつて、それが十五に殖やされ、そしてあらゆる困難に打ち克ちながら、兎も角も、怠りなく授業を繼續してゐる。然もこの十五といふ數の中には、他の民衆大學や、共産黨大學や、その他の一般的な或ひは專門的な、多數の高等學校を含んでゐないのである。ソヴイエットロシアが教育に無關心であるかないかは、帝政時代に九つしか無かつた大學を、十五に殖やしたといふこの一事だけでゞも、明白に證明出來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ナルコンプロスに於ける各委員が、人民教育に關するあらゆる施設計畫のうちで、最も意を注いでゐるものは、そして吾々に最も興味を與へるものは、プロレツトカルトの運動である。プロレツトカルト・インタナシヨナルの執行委員としては、最初に左の人々がその衝に當つてゐた。（寫眞參照）ルナチヤールスキー（露、委員長）ヘルツオーグ（獨）バルテル（獨）ボンパツツイー（伊）トム・ケルチ（英）マツク・レーン（英）ヴン・ヴエルストライテン（白）レイモン・ルフエーヴル（佛、故人）トーマン（墺）、ジヨン・リード（米）フンベルト・ドロツツ（瑞）ブリンドコルフ（瑞）ヴアレリアン・ポーランスキー（露）……

右のうち、ヴレリアン・ポーランスキー（Valerian Pol.siki）は、目下出版物檢閲委員長をしてゐるのであるが、彼自身、無產階級文化のための色々な述作を表はしてゐる。最近 Sennacieca Jutmonda Asocio の編輯部主任 E. LANTY 氏が露西亞を訪問して、その節ポーランスキー氏と會見した。そしてプロレツトカルトに關する氏の談話を聞いて來た。以下はポーランスキーの談話の要點を摘記したものである。

プロツトカルト・インタナシヨナル中央執行部員—左ヨリ前、ヴエルストライテン　ポーランスキー，ルナチヤルスキー，ボンパツツイー，ヘルツオツグ。後，ブリンドゴルフ，フンベルト・ドロツツ。

勞働者の世界が、あらゆる……………………は、種々雜多な道を辿らればならない。吾々の組織的運動は、廣汎な政治運動となつて展開されてゐる。然しながら舊世界は、單に政治的經濟的方面に於て無產階級を壓服しようとするのみならず、更に『神聖なる』財產私有と、搾取との原則に基づいて作られた彼等の文化の勢力を以つて、勞働大衆に精神的賦役を課すのである。茲に於て全世界の無產階級の前には、單にブルジヨアの

[illegible]といふ重大問題が起つて來るのである。

革命的マルキシスト は、マルキシズムといふものが、單に政治的經濟的闘爭にのみ限られてゐるのではないといふことを、常に心得てゐた。政治的、經濟的革命運動を、更に一層擴充させ得るものは、洵に、力強い知識革命の運動である。然るに、從來の政治的運動者は、プロレタリアそれ自身の中に於ける、知識勞働に對して、殆んど何等の期待を掛けてはゐなかつた。隨つて、政治的諸團體や、職業組合や、更に敎育者組合などによつて作られた敎化事業は、概して、何等特別な無產階級文化のシステムを備へてゐなかつたのである。そしてそれは、ただ、通り一遍の、極く普通な敎化に過ぎなかつたのである。

舊きブルヂョア世界 は彼等の色々な方式や、主義や、憶斷などの大綱で以つて、プロレタリアを包んでゐたのであつた。今日まで、プロレタリアの大多數は、ブルジョア心理の影響から、ほんとに彼等自身の感情を、ほんとに彼等自身の理性を、解放してはゐないのだ。今日まで勞働者の生活は、その根柢に於て、ブルヂョアの生活樣式に結び付けられてゐたのだ。そしてさうした精神的内部的壓迫は、兎角新生活への先驅者達の妨げとなり、來るべき新たな生活創造のための、革命的熱を冷ますことになつてゐたのだ。

プロレタリア はプロレタリア自身の文化を創造しなければならない。そしてその文化こそは、やがて來るべき共產社會に於いて、また、やがて人間相互間の『階級』が消滅するであらう曉に於て、全人類全般の文化になるものなのだ。

ロシアに於けるプロレットカルト はその運働の目的として、先づ無產階級の文化を組織立て秩序立てゝ、その要素を、勞働組合の陣營の上に分配することである。

プロレットカルトのプログラム は、無產階級が、新しい知識を以つて自らを武裝し、新しい藝術によつて自らの情操を培ひ、そして新しい精神によつてその社會生活の關係を再建させるやうに作られてゐる。

知識革命運動の二つの部門 がプロレットカルトの中に在る。

第一の部門に於ては、舊世界から受け繼いだ知識的遺產を拾ひ取つて、プロレタリア解放の手段に供しようとするのである。即ち、舊世界の知識をそのまゝ受け容れるのではなくて、プロレタリアの良心を以つて、大膽にこれを批評研究して、その知識の精髓の中から取捨選擇しようとするものである。

第二の部門は、共產主義を根柢とせる全然新しい原則の上に立つて、あらゆる科學と藝術（詩、繪畫、彫刻、音樂、演劇其他）とをすつかり改造しようとするものである。即ち、未だプロレタリアにつき纏つてゐるブルヂョア的考へ方を根本的に變へて了はうとするものである。

この、努力はカール・マルクスによつて初められた。吾々は、この努力を、知識

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の全面に亘つて、藝術の全面にわたつて擴げればならない。この努力を効果あらしめるためには、プロレタリア自身の中から、あらゆるブルジョア的臆斷を排さればならない。

這の一般的目的に因つて、プロレットカルトは、科學と藝術の分野の上にその出發點を置いたのであつた。社會的勞働の組織を作るためには、科學は是非共必要な道具である。科學が特權階級の手に在るとき、それは人間を搾取し壓迫する道具になる。そして科學がプロレタリアの手に在るとき、それは自然そのものに對する鬪ひの武器となるのである。

要するにプロレットカルトは、本質的なプロレタリアの教育家、詩人、批評家、著述家、畫家、その他一般の藝術家及び科學者を作るものでなければならない。卽ちプロレットカルトは、プロタリアの知識的創造である。共産黨が政治的創造であり、職業組合が經濟的創造であるやうに。

プロレットカルト運動は工業の發達した國に最も深く根を下ろすべきである。何故なら、プロレットカルトは、工場及び製作所のプロレットカルトをその第一の目的としてゐるからである。今のところ、ロシアを除いて、この運動の最も旺んなのは、獨逸、伊太利、瑞典、チエコ・スロヴキア、英國等の諸國である。そして吾々が特に刮目すべきことは、英國に於ては、官憲が、ソヴエットロシアの藝術作品を輸入禁止したといふことである。そのことは、英國官憲が、藝術の持つ革命的力を了解してゐた證據であると云つていいであらう。

とまれプロレットカルトは、最早議論ではなく、實行の時代に這入つてゐるのである。殊に、ブルジョア文化と封建文化と二つのものに毒され盡してゐる日本のプロレタリアにとつては、他のいづれの國のプロレタリアにとつてよりも以上に、革命的プロレットカルトの必要がありはしないか!

『モスコー・プロレットカルト』繪畫研究所の生徒のリノリウム作品。

筌人欄

文壇ゴマの蠅征伐（第二）
——文藝春秋座——

淋猴　冠者

昔は東海道五十三次を往來する旅客の懐中を狙ふ者に、道中ゴマの蠅あり、今はプル、プロの兩文壇に生活する者にとつ附く文壇ゴマの蠅がある。前者は天下の智惠者水戸黄門の好敵手となつて、千載の下、尙ほ講談誌上の華と唄はれ、後者は「交藝春秋」の埋め草となつて、天晴れ露店の店頭で曝し者にされてゐる。親の身になれば、何とやらは尙ほ可愛いと云ふから、こんな舌足らずでも、親があつたら、何處かの片隅で歎いてゐやう。

その舌足らず、のゴマの蠅の、御愛嬌のいい所を一二四、皆樣方の御覽に入れることにしようかい。

東西、東西、此處許御目通り致させまする文壇ゴマの蠅、イキのいい所で……（とまづ拍子木を打つて置いて）小柳博と云ふラムネが文藝春秋座の端役にゐる。此奴、大根（むろん白大根だが、）薹が少し立つて不味い味だ）の癖に、舞臺の片隅でフンぞり返つて、『一體文學に、イヤサ藝術に階級といふものがあるものだらうか。なんの、そんなものがあつて堪るけえ、文學の文は、之を大にして文明文化、之を小にしては文章なりき。學は之を名詞にして學問となり、動詞にして學ぶである。何處にも階級のかの字もない。そこでお茶屋で遊べないお人達が憤慨して、プロ文學の樹立を高唱するのか。よせやい、みつともれえ』と、群馬なまりの、土臭いセリフを臆面もなく御託宣だ。藪鶯は土手育ちだ。『蜘蛛』あたりで、默つて巣でも張つて、無垢な田舍の若俗の血でも吸つてりやいいことに、生仲、文藝春秋座あたりへ、頭を突込んで、他人の尻馬に乘るから、マゴマゴして逆上して、でんぐり返つてゴマの蠅になり下るんだ。『よせやい、みつともれえ』と云ふ文句は、此方からノシを附けて返へしてやらあ。

一體、文學や藝術が、ヘソの穴からでも生れるやうに、この連中は思つてゐるのだ。それでなくつて『嘗ては名無きを憤つて無名作家同盟を作つて有名ならんとし、今又、階級打破を叫んで身自ら慘めな階級を形作つて怒號する群がある』だとさ。こんな藪鶯にかかつちや、プロレタリア文學運動の意味も精神も判つたものではない。自分の身に引較べて、鶯は何處で啼いても、ケキヨケキヨとしか啼かないものだと思つてゐるんだから堪らない。一人前にき啼たけりや、モ少し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勉强してから啼くことだ。

そこへ行くと同じ『蜘蛛』仲間でも、味津三佐々木入道は、少し利巧だ、中野の隱家に日向ぼつこをしながら、地主の長男らしくヘソの穴から文章を繰り出してゐる。その文章の粘りつこく、執念深く絡みつく調子は、佐々木入道の人格そのまゝだ。彼を評して、宇野浩二の亞流となし、浩二の模擬をなす者は、未だ入道を知らざる者の言である。ガイサイの恨も必ず報いる底の彼の特徴は、文藝春秋二月號の記事で十分に語られてゐる。正宗白鳥に、その處女作『馬を毆ぐり殺した少年』(大觀掲載)を酷評されて以來、白鳥を眼の仇にして、それ所か白鳥を生んだ早稻田の一門をも眼の仇にして、喰つて懸つてゐる。かうして蓋を開けて見ると、彼が小川未明を去つて、菊池寛の前に再拜三拜した理由も判るだらう。彼は決して新勢力に迎合するの徒ではない。恐らく白虎隊となつて、先頭第一に討死する者は、藤森淳三、佐々木茂作、今東光、南部修太郎、小島政二郎、井汲清治、酒井眞人等々の小勇士(江口渙の語を借りる)ではなくて、中野の味津三入道であらう。味津三、如何にジタバタするとも、最早や宇野浩二に及ばず、宇野浩二、如何に齒嚙みするとも正宗白鳥に及ばず、とすればだ、佐々木味津三たる者も、最早や斷念し、文藝春秋座の三枚目所位になる可く、今から折角勉强するのもよからう。そして地主が小作人に攻め落される時に、見苦しい死態だけはしないやうに、覺悟して置くべしである。

菊池のクワン先生が、『思想家の潔癖』といふ文章のなかで、未だに『文藝に階級なし』と言つてゐる。世の中は何も文藝が生れてから階級が出來たのではない。文藝なんかなくつても、階級は資本主義制度の下に、ちゃんと形成されてゐるんだ。そして、資本主義的思想を肯定し、それの擁護に都合のいゝ樣に藝術といふものが作られ、發表されてゐる。そして資本家國家に都合の惡るい思想や藝術は、悉く法律の名に依つて抹殺されてゐる。だから、資本主義を擁護し、その罪惡を助長する文學ばかりが、現代に於ては藝術の名に於て榮えてゐるんだ。これをブルジョアの文藝と云ふんだ。だからプロレタリア階級から見れば、現代の文學は悉くブルジョア階級の走狗だ。プロレタリアが眞のプロレタリアの發想を持たうとする時に『ブルジョア文藝を倒せ』と叫ぶのは當然ではないか。それは君達が癪に障つたり、邪魔になつたりするのではい。プロレタリアが、プロレタリア自身の文化を持たうとする時に、君達の持つブルジョア文化そのものが、目障りになり邪魔になるからだ。

菊池先生、以下……の文藝春秋の雜輩共ゴマの蠅どもよ、安心したまへ。奨寧、プロレタリアの文藝運動は、君達の心配してゐるやうなイズムの爭ひでもなければ、原稿料の爭奪戰でもないんだ。ブルジョア・カルトに對抗する、ロレット・カルトの爭鬪なんだからね。

『文學に階級があつて、たまるけえ』と、フンゾリ返つた小柳白大根や、直木某といふ、卅幾つとかになつても、まだ舌足

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らずか、幼稚園の子供のやうに、譯の判らぬことをアバアバ云つてゐる馬面とは違つて、識古今を貫ぬき學東西に渉り、天晴、米國の劇壇とやらをウンとうならせた名脚本を書いたクワン先生にして『文學に階級なし』と叫んで、自らブルジヨア階級の擁護をしようと云ふのは、何と先生心得違ひでは御座らぬかい。

さて、茲に甚だ面白い話がある。片山潜氏の自叙傳を讀んで行くと、井深梶之助（明治學院長）が米國へ來て、何處かの會合で英語演説をやつた所、片山潜の傍にゐた米人二人の會話に曰はく『どうもアノ日本人は中々よく喋る。感心だ』と云ふと『さうさ。然しあれは何處の國の語だらう。英語らしくあるが吾々に解せない所を見ると、アレも日本語の一種かも知れぬ』と感嘆したさうだ。何とゴマの蠅共よ、面白い話ではないか。

汝等がプロレタリア文學に空吠えでもしようと云ふ心得なら、支那蕎麥屋のラッパのやうな亡國的なヒステリイ聲を出す前に、ルナチャルスキイの本の一冊でも讀んで來い。汝達の書くものが、そこら邊りの不良少女や不良奥樣に感心されたと思つてゐると、トンだ大間違ひの眞中だ。秋波を送られたと喜んでゐたら、藪睨みだつたつてネ。井深梶之助の演説にさへ、米國人は感心したんだよ。笑はせやがる。

今東光とか云ふ、ニキビを吹き出した文學書生が、文藝春秋座にゐる。佐藤惣之助とかの屁のやうな詩を痛快にやつつけてゐる。大に賛成だ。そして、その文章のなかで『これでは現世出世の道は、文章作成の上にあると人は僕の文章を見たら思ふだらう』と云つてゐる。まつたくだ。こんな其處らの古本屋から十冊十錢位で買つて來た古本を擴げて、文句を並べて、それで批評とか屁評とかになつてゐるのなら、誰だつて君に態々『薄氣味の惡るい世の中ぢやないか』と教へられる迄もなく、氣味の惡るい世の中だと思ふよ。これでブルジョア文壇の大批評家になれるのなら……オイ其處いらのチッ母ア間違つても、文學書生の卵なんか生んでくれるなよ。殷鑑遠からず、帝國大學文科在籍の一少年今東光先生あり矣。

民衆の道徳は生きることだ

東京　安岡黑村

性と食とに惱める民衆には
生きるために慾望を充すことが論理となつてゐる
止してくれ！　高尚な理論を、
それもパンをくれ、酒をくれ
美しいお孃樣が帝劇のローカを歩いても
ダイアモンドの指輪をきらめかしても
民衆の糧とはならないぜ
むしろ、一個のパン
醜い淫賣婦が
どれだけ此場合尊いか知れない
歩け？　歩け！
民衆の群は
かまはずどんどんと歩け
ぶつかかる迄歩け、歩け！
大聲上げてどん／＼歩け！
そこに民衆の道德があるのだ！

× × × ×

どんどん歩め、どんどん歩け！

お城のやうな家から
美しいお孃樣がでてくる
　女中をつけて歩いてゆく
廿世紀の文明は、
斯うした片輪な女をうんだのか
地位、名譽、金、に結婚する孃さん
　かんじんの男はどうするのだ
物質と性慾との怪しい交響樂
　それが現代の社會か
力を信じるものはどん／＼歩め
　裸體で歩め！
　這つて歩け！
狂人か馬鹿か、其處に大きな世界が開け
る！

○俺らの天國へ

田中　獏人

兄弟よ！
眼をあけてみろ
白日の中に晒されてる
○○○○○○血みどろの
○○○○肉體を……
それはみんな、俺らの現實の
姿なんだ
このとき、畜生共は斯うほざく
自我だ、人道だ、道德だ、愛だと
そして○○だ、文明だ、○○だと
藝術だ、敎育だ、宗敎だと
そして數へ切れぬほどの
何だ、何だ、何だと……
だが一體……曾つて俺らは
その何奴らにどんな幸福を授かつたこと
があつたか。
考へてもみろ
俺らの不幸は今も昔と變りは無いんだ
オーイ、俺らの兄弟仲間よ
もう彼奴らに二度と欺されて
はならねいぞ
然う氣がついたら……
俺らは俺らで、すこしもはやく
幸福の綱をたぐらうぢやないか
オーイ、兄弟！
俺らの天國は近づいてゐるぞ。

婦人解放演說會

大阪　秋山　武男

俺達の兄姉諸君に喜ばしき出來事を御通知する。

それは他でもない。今度新らしく大阪の無產婦人間に生れた靑光婦人會が主催の下に二月十八日の夜天王寺公會堂で『婦人解放演說會』を開いた事だ。丁度その日はポカポカ暖い日曜なので、眞面目な、自覺した聽衆の集ること二千。尙數百の人々は會場に這入れなかつたために會の終る迄外から聲援した位。そしてその聽衆の中に交る數百の若い婦人達が頰を赤く熱狂した神聖な光景は、ソンジョそこらのダイアと錦紗に廢體を包まれ、帝劇と三越に魂を奪はれ、そして肉の切賣をして居る哀れな現代ブルジョア階級の女ども。○○の近づきつゝあるを知らず、更に己の身の破滅期の逼迫した事實を知らない、キ婦人連中にオガましてやりたい位であつた。

壇上には女工、タイピスト、女給、女敎員其他あらゆる職業婦人を網羅した靑光婦人會の會員中より岡部夜詩子、小堀千代子、山内みな子、荻郁子、加藤靜子、北島愛子、北垣績、森井歌子及び朝鮮婦

人勞働者元康和等の人々が、婦人の奮起無產階級の蹶起して、資本家階級を倒すべく大氣焰を上げ、わざ〳〵原稿を送つて下さつた金子洋文氏の『無產婦人に訴う』は新社會社の佐藤愛子が代讀し、後では水平社の平野小劔、野口一郎、の兩君まで應援演說をなして十分無產者の意氣と、熱とを表示し得た立派な演說會であつた。

處が會場の裏には制服の警官數十名。公園の樹木の影に亦數十名。イヤハヤ誤苦勞千萬な話、何でも聞けば在阪の主義者によつて新らしく組織されたABC俱樂部がその夜一大活躍？をすると云ふ大警戒だとさ。彼奴等のする事なす事を影も形もない噂を氣にしての結果が此の想ふと馬鹿馬鹿しく、否寧ろ馬鹿を通りこして悲慘な氣がする。

兎に角大阪の無產婦人も起つた。

そして階級戰線に！無產男子と共に！

噫その日の來るのも、モウすぐだ。

吹雪の國より

弘前　堀江　彥藏

哀れな箱列車
さびた機械の音
人間は炭酸瓦斯に醉つて
眞靑になつて倒れかゝる
北海に雇ウツ人夫等の力ない額光
吹雪はみすぼらしい社會の
三等客車を無心に橫なじる飢
夫婦連れは生活貧の
二人支辨に疲れて
手を組みまはして絕望にねむつてゐる
ドン底の慘苦旅行だ
哀れな箱列車　さびた機械の音

窓

月下人

大地をゆるがす機械の音、
おゝその激しい音に、
心臟の鼓動を押しつけられて、
開放に憧憬れるくぼんだ眼で
靑白い屍が、戰き乍ら
お前を覗めて居るではないか
開け放てよ、而して
流し込め
谿流の上に彷徨うて居る大氣を、
湖上にゆらぐ太陽の光を、
內臓の底まで滲みこませろ、總ての屍の
おい窓、
此の重い鐵鎖に繫がれて〇〇に戰いて居
る俺達が
お前の目には映らないのか
おい!!!

絕叫

（今野賢三兄に）

葭塚不二男

今や全國に亘つて、プロレタリアの共同
戰線は張られつた。
各部の部員は各々、我等の讐敵、
ブルジョアに對する階級鬪爭に於ける
部署についた。
前哨に、或は後方勤務に。
眞理の赫奕たる炬火は高く擧げられた。
我等の吐く、――――
――――
――――
――――
一日一日と我等の勝利の日は近づくのだ
我等の活動は漸次、其の發烈熾灼の度を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高めて行く。
此處は市内の、某館の陰陰雜然たる
辯士室、
薄暗い電燈の下、
彼は眞理の傳播撒布の爲め、
全精神を吐露し、階級闘爭の燃ゆる
樣な熱辯を無自覺なれど、
感受性强き民衆に向つて投げ掛ける、
暗にうごめき、ざわめく無智の民衆、
彼の吐く、强い餘韻を殘す言葉言葉は
錐の鋭さを持つて、彼等の胸に、
深き感銘を與へて、喰込む
彼は嵌口—— 壓迫、强權の嵌口のために
惱み乍らも、暗に資本主義の倒壞を
絶叫してやまぬ、
スクリーンの上にうつる。
ブルジョアの癖態、狂態、
彼は、憤激の涙を呑んで、
彼等を罵倒し、糺斷する、
寸暇なき彼の活動、無產階級の解放に、
努力する男々しき彼の姿、
彼の意氣、は隣人をして、じくじたらし
める。
如何なる障礙にも勞易せず、
何物の壓迫にも虐げられぬ彼の勇敢
なる、姿、
我々の戰のヴアンガードよ。
終局まで、戰つて吳れ。
此は漂泊者が君に衷心から 祈る言葉だ。
スコーロ、ブージエト、ナーシユ、スア
ボードヌイ、ジエーン、
ブリースコ、ナーシユ、トルヂエストボ、
プロレタリーチエスコイ、ペレヴアロツ
イ、　——一九二三、二、十六、——

自主

場倉 順吉

一切の救ひを拒絶する
私はなにものの救ひも 慰めも要求せぬ
見よ「自主」は高々とかかげられたのだ
その前に君たちの何ものを 要求しようぞ
(然し「自主」をもてる私は
　今や個人でないのを知る
　「私は今や卽ち「民衆」である)

闘士に

ぬかずきたい樣な祈願の山をもつて
燃ゆる意志と、燃ゆる情熱、而して强き
內省と沈思をもつて
たへず己れ自らをむちうちむちうち
眞暗のこの地上を步む 一個の私よ
今私たちは知らなければならない
(それはいつでも「今」である
　新しい自覺でなければ ならない)
それは我行動の前に、我思惟に常に
その心臟に短刀を擬し
命がけで步まればならない と言ふことで
ある。

大旋風の中を！

赤き火生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おゝ あの一隊！
宣傳ビラには何とある？
『…………』
家(ブル)の殿御(とのご)は何處行つた？
街の酒場で花ちやんと
あれ！ キツスした
それ危い！
金と女と酒とに醉つた
太(ふと)つちよのブルが滑つた！
彼奴(きやつ)の最後のうめき聲は？
ダダ…………
ダダは吹く
ダダは渦卷く
すべてのものを吹きまくれ！

家(ブル)の女房は何處行つた？
ハイカラ紳士と舞踏場！

おゝ 眩暈(めまひ)が！
戀と化粧と愛とに醉つた
顏の白いブルは舞ふ
戀愛至上主義と舞ふ
ダダは踊る
ダダは舞ふ
踊れよ 踊れ！ ダンス・マカーブル
かくて嵐は吹きすさぶ
ダダ旋風は吹きまくる
何んだつて？
圖書館の
暗い隅つこに巣喰つてる
書物(ほん)食ふ蟲が何んと云ふ——
——トルストイやベルグソン
クロポトキンはもう古い
——では豐彥や親鸞もの如何？
——スチルネルに老子もござい！
——まあ／＼暫く待つてくれ——
——俺の頭ははりさけさうだ！
吹けよ 吹け 吹け ダダ旋風！
地上のものを吹きまくれ！
～～～～～～～～～～～～～～
家(プロ)の息子は何してる？
資本仕掛のゼンマイ時計
工場鎖にしばられて
朝から晩までコツチン コツチン
年が年中コツチン コツチン
それではいけない此方(コツチ)ぢや 此方(コツチ)ぢや
プロレタリヤよ街頭へ
奇蹟の時ぞ 今來る

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

武者小路

回豫約募集回

武者小路實篤氏の全集を刊行します。此天に冲する喬木の眞の高さが明かさにされる時が終に來ました。自然主義以後暗黑と癈頽とに沈んでゐた日本の文藝界、思想界に、氏がどんな救ひの光を投げたかと云ふ事などは、今更喋々する迄もない。氏の價値は今や既に世界的です。軈ては世紀的にさへなるでせう。我々は單に文藝愛好家のみに此全集の讀者を限りたくない。有らゆる階級、有らゆる職業の人に之れを推奬したい。混亂、錯雜、紛糾の極に達してゐる現代に立つて、人類永遠の希望の火を高くかざしながら獅子吼してゐる此巨人の心を、有らゆる人胸に傳へたい。

回締切切迫五月十日限回

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實篤全集

特色

一、署名。第一巻及十二巻の扉には武者小路氏が自署します。

二、番號。本全集は記念出版として各巻悉く番號を附します。

三、續行。今後の武者小路氏の著作は、全集の續刊として同じ装幀の下に刊行し、本全集豫約者のみに頒ち、以て全集の意味を徹底させて行きます。

装幀は岸田劉生氏の苦心の装畫を、高見澤遠治氏が卵黄色羊皮の上に木版手擢筆彩色を施したもので、未だ世界の出版界に類例なき美本です。内容の不朽と相俟って永遠に後世に傳はるものと、本會は聊か自負してゐます。

内容見本 御申越次第進呈

豫約規定

一、本全集は豫約申込者のみに頒ち分賣せず。

二、刊行期間。本年五月末より毎月一冊宛刊行し十二ヶ月を以て完了。

三、装幀、特別版洋装。總羊皮。全紙數九千頁。

四、豫約會員を二種に分つ。

(甲)一時拂金五十圓(十二冊)申込同時に拂込みの事。

(乙)毎月四圓六十錢(一冊分)乙種會員に限り申込金四圓六十錢を申込と同時に拂込みの事。右申込金は最後の月の拂込金に充つ。

五、送料(一冊について)市内 十二錢、地方廿五錢 朝鮮臺灣、滿洲廿五錢、外國一圓。

發行所——曠野社——合名會社藝術社

申込所 東京市外中澁八六八 合名會社藝術社内 武者小路全集刊行會

振替東京六三二五四、電、青、一六四一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會主義研究・前衞・無產階級の合同

赤旗

定價四十錢
郵稅一錢

半年 二圓
一年 四圓

創刊號內容要目

□朝鮮に於ける治者と被治者……高津正造
□無產階級から見た朝鮮解放……思想家勞働者三十餘氏
□ブルジョアのソヴイエット……鶴見宗治
□無產者革命と民族問題……高橋貞樹
□恐嚇時代……山川均
□赤色組合インタナショナル大會……ロソフスキー

見よ！集中されたる新陣容を
讀め！社會主義雜誌の權威を

□共產インタナショナル大會(三)……西雅雄
□資本主義の搾取關係……北原龍雄
□農民運動の飛躍的發展……赤松克麿
□社會革命と土地所有權……佐野學
□日本政界の現在及未來……堺利彥
□第二回全國水平社大會記……海門寺五郎

東京市京橋區日吉町八番地

赤旗社

振替口座東京五四七七

新興文學

◆四月特別「階級藝術確立」號◆

■階級的に對立する藝術觀……佐野袈裟美
■プロレタリア文藝の美……今野賢三
■新興文藝と革命的精神……小島德彌
■川路柳虹への逆啓蒙……伊福部隆輝
■海外文藝への折々（二）……宮島新三郎
■純文藝批評の立場から（二）……林政雄
■予の新興藝術觀……近松秋江
吉田絃二郎

——創作六篇——

點燈前後……小川未明
機關庫の朝……中西伊之助
被害者……吉田與三
佐幌山麓……加藤由藏
敗殘者の群（長編）……吉田金重
內藤辰雄の小說……內藤辰雄

■論難・駁擊・公開狀
■伊福部隆輝への抗辯……宵島俊吉
■ブルジョア藝術の正體……西村陽吉
■何を云ふ！……本地正輝
■血迷へる民主詩論……岡本潤
■次の歌壇に來る者……矢島歡一
■內藤辰雄に與ふ……松本淳三

■前田河廣一郎の印象……山川亮
■前田河廣一郎を小論す……井東憲

■冬が暮れて……大藤治郎
■病院の待合室……井上康文
■飢ゑてゐる人々の群……新島榮治
■樺太へ……前田夕暮
■冬日の思鄕……並樹秋人
■水鳥と富士……今中楓溪
■蛇を燒く……林信一
■天文臺……赤インク

本號特價八十錢 送料二錢

東京市麴町區內幸町一ノ五
新興文學社
振替東京六二一八〇番

種蒔く人　第三年第四卷第十八號　（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）　大正十二年四月十三日印刷納本　大正十二年四月十五日發行

前號目次

プロレタリアと婦人問題…山川　菊榮
國際共産婦人デーのこと…岩坂　幸子
國際婦人デーのために……井手　とし
現代社會と婦人…………林　てる
女工生活の斷片…………浪內やま子
女工と淫賣婦に就て……細井和喜藏
鐘紡の配當と女工…………
無産婦人と水平革命……高橋　貞樹
露獨革命と婦人の解放…………
……………クララ・ツェトキン
兩性問題と社會主義……守田　有秋
共産黨と無産婦人…………
ロシアの小さき同志を救へ…………
巴里コムミュンとその敎へ　青野　季吉
純粹なれ、彼等を記憶せよ…小川　未明
鐘……………………海野　榮
通俗藝術家出でよ……藤井　眞澄
宣言と決議…………無産者同盟
□批評欄——世界欄——聳人欄…………
□表紙及びカット…………柳瀨　正夢
□火事の夜まで…………今野　賢三

編輯後記

本號は朝鮮同志號とする筈であつたところ、原稿のことなど、不慮の手違ひから、何うしても中止しなければならぬことになつて終つた。殘念だつたが止むを得ない。讀者諸君にお詫びします。尚、中西伊之助君の「桃色の兵隊」は、その爲めに書いて貰つたのであるが、これだけは特に入れることにした。その積りで讀んで貰ひ度いものである。

本號は、不慮の手違ひやら、檢閲やらで發行日がおくれたために、五月號とした。六月號からは、佐野袈裟美、前田河廣一郞、中西伊之助の三君が新同人として加入一倍の戰闘をしてくれることになつた。面目一新、諸君の前にまみえることになるであらう。より以上の聲援が欲しいものである。

國際婦人デー講演會は、別項のとほり、解散を喰つて殘念であつた。

本號定價四十錢

定價　一部三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　每月五日

大正十二年四月十三日印刷納本
大正十二年四月十五日發行

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行人編輯人
印刷人　今野賢三

東京市神田區今川小路一丁目一番地
印刷所　同工社

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種蒔く人

第三年第四巻第十八號（大正十年十二月一日 第三種郵便物認可）大正十二年四月十三日印刷納本 大正十二年四月十五日發行

本號定價四十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA